HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	若年層の雇用・労働をめぐる一考察 ： ヤングハローワークでの求職者調査より
著者	川村，雅則
引用	季刊北海学園大学経済論集，53(4)：189-221
発行日	2006-03-20

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《調査報告》

若年層の雇用・労働をめぐる一考察

——ヤングハローワークでの求職者調査より——

川　村　雅　則

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．調査の概要
Ⅲ．調査の結果
　1．属性
　2．若年層の労働条件・処遇など
　3．求職活動の状況
　4．世帯や暮らし向きの状況
Ⅳ．まとめに代えて
資料

Ⅰ．はじめに

「フリーター」＝「定職に就かない若者」，「NEET (Not in Education, Employment or Training)」＝「働く気もない，フリーター以下の存在としての若者」というイメージが形成され[1]，若者の雇用・労働をめぐる問題が，彼・彼女らの「低い」就労意識をどう克服するかということに収斂される風潮が強い状況のもとで本稿の目指すものは，札幌のヤングハローワークで求職者を対象にわれわれが行った小規模な調査[2]の結果にもとづき，若者の雇用・労働をめぐる問題の一端を示すことである[3]。

政府による若年雇用政策の展開が示すように，よくも悪くも若者の雇用に社会的な関心が集まっている。だが，政策の内容が例えば働く意欲の喚気に象徴されるようなものである点から考えても，そこで意図されているのは，「フリーター」「NEET」予防，あるいは「低い」就労意識の若者をどう仕事につなげるか，ということとさしあたりはまとめられよう[4]。「7・5・3離職」現象など若年層の就業行動が，そういった政策に「正当性」の根拠を与えている[5]。

だが，そもそも，まず前提にされるべきは，若者の雇用・労働をめぐる様々な現象の背景には，この間の社会構造の文字通りの大変動があるということだ。経済のグローバル化と不況のもとで雇用の機会が減少している。また，『白書』[6]が正当にも指摘していたとおり，「フリーター（ここでは失業者や非労働力人口中の就業希望ありも含む）」増加の背景には，そういう状況下で，企業間競争が熾烈化し，企業の雇用戦略が変化している（非正規雇用の活用，新卒採用の抑制）という事実があった。学校から仕事への移行のかつての「標準」は90年代半ば以降に急速に崩れている[7]。そして，長期を前提とする雇用のそういった絞込みは，かつてはOJTを中心とする企業内訓練で育成されてきた層の縮小を，言い換えれば，公的な職業訓練制度が整備されていない状況に新卒の若者の多くが放り出されることを，意味していた。

ここで，調査の分析結果に入る前に，若者の雇用・労働をめぐる特徴について政府データを一瞥しておこう。可能な限り北海道のデータの提示を心がけたが，一部は全国データの提示にとどまる。

第一に，言うまでもなく，大量の失業の発

表Ⅰ－1　男女別にみた北海道の若年層人口・労働力人口・完全失業者の推移　単位：万人，%

		北海道					全国				
		15歳～34歳人口	労働力人口	労働力人口比率	完全失業者数	完全失業率	15歳～34歳人口	労働力人口	労働力人口比率	完全失業者数	完全失業率
男	平成2年	75	49	65.3	2	4.1	1776	1201	67.6	33	2.7
	9年	76	53	69.7	2	3.8	1799	1315	73.1	60	4.6
	15年	71	52	73.2	5	9.6	1719	1258	73.2	94	7.5
	16年	70	50	71.4	5	10.0	1691	1230	72.7	87	7.1
	17年	69	50	72.5	4	8.0	1659	1209	72.9	78	6.5
女	平成2年	77	37	48.1	2	5.4	1708	858	50.2	31	3.6
	9年	77	41	53.2	2	4.9	1732	956	55.2	56	5.9
	15年	71	41	57.7	3	7.3	1658	943	56.9	70	7.4
	16年	70	40	57.1	3	7.5	1629	935	57.4	62	6.6
	17年	68	39	57.4	3	7.7	1597	929	58.2	61	6.6

出所：総務省「労働力調査」（北海道分についてはプリントアウト）より作成。

表Ⅰ－2　男女別にみた若年労働者の正規雇用と非正規雇用の規模（全国）

単位：上段は万人，下段は%

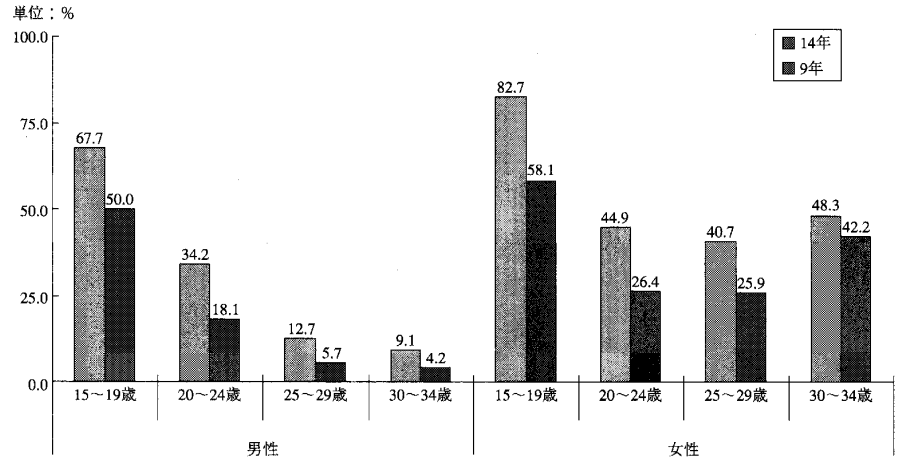
	男						女					
	15～24歳（在学中を除く）			25～34歳			15～24歳（在学中を除く）			25～34歳		
	9年	16年	増減	9年	16年	増減	9年	16年	増減	9年	16年	増減
役員を除く雇用者	292	221	▲71	749	774	25	291	233	▲58	468	549	81
正規の職員・従業員	256	161	▲95	711	686	▲25	225	142	▲83	336	328	▲ 8
非正規	36	62	26	38	89	51	65	91	26	131	220	89
役員を除く雇用者	100.0	100.0	0	100.0	100.0	0	100.0	100.0	0	100.0	100.0	0
正規の職員・従業員	87.7	72.9	▲15	94.9	88.6	▲ 6	77.3	60.9	▲16	71.8	59.7	▲12
非正規	12.3	28.1	16	5.1	11.5	6	22.3	39.1	17	28.0	40.1	12

注1：非正規は「正規の職員・従業員」以外。
注2：増減は平成16年の値マイナス平成9年2月の値により算出。
出所：総務省『平成9年2月労働力調査特別調査報告』及び『平成16年労働力調査年報（詳細）』より作成。

生である（表Ⅰ－1）。非労働力人口中の就業希望者は含めず，いわゆる完全失業者（顕在化した失業者）だけでみても，若年層の失業者数は失業者全体の約半数を占め，失業率は全体の値を上回る。地域格差も大きく，北海道はとくに厳しい。例えばこの間，有効求人倍率の回復がみられたが，愛知県が1.61倍であるのに対して北海道では0.61倍にとどまる（もっとも，増加の多くはパートであって正社員の求人は少ない)[8]。

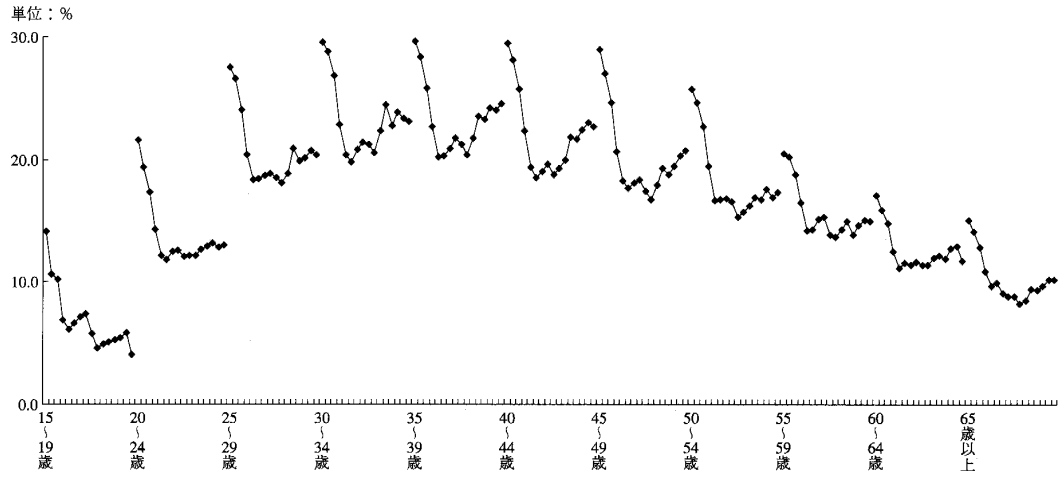
第二に，俗に「フリーター」とも呼ばれる，非正規雇用の増大である（表Ⅰ－2）。『労働力調査（詳細)』によれば，全国でのその値は，男性15～24歳で28.1%，25歳～34歳では11.5%を占める。女性ではさらにこの値は大きくなり，全体の約40%に及ぶ。北海道はどうか。この『労働力調査』には北海道の数値は掲載されていない。そこで，調査の時期や定義が異なるが[9]，総務省『就業構造基本調査』で確認してみよう。

図Ⅰ－1のとおり北海道では，20歳代後半の男性では非正規は12.7%，女性では



図Ⅰ－1　男女別にみた若年労働者の非正規雇用の規模（北海道）

注1：役員を除く雇用者に占める非正規比率。
注2：雇用者には在学者も含むので注意。
注3：非正規は，パート，アルバイト，労働者派遣事業所の派遣社員，契約社員・嘱託，その他。
出所：総務省『就業構造基本調査報告』（平成9年及び14年）より作成。



図Ⅰ－2　年齢別にみた週60時間以上就業者比率の推移（平成元年～16年，非農林業）

出所：総務省「労働力調査」各年版より作成。

40.7%で，30歳代前半になると男女それぞれ9.1%，48.3%となる（在学者を含む）。平成9年に比べて非正規の比率が増加している点は全国と同様である。

以上が仕事の入り口の問題とすれば，次にあげるのは就職後の問題である。その一つが長い労働時間・働きすぎの問題である。これが第三の特徴である。男女別にみると，女性についても，母性保護廃止の「追い風」を受けて一定の層に長時間労働の拡大する傾向がみられる[10]。が，ここではとくに状況が深刻な男性についてこの問題を確認しておく（全国データ）。

図Ⅰ－2は，非農林業の男性で週60時間以上働く者の比率の推移を年齢別にまとめたものだが，バブル崩壊以降，国際貿易摩擦のもとで減少しつつあった労働時間は再び増加傾向にある。30歳代ではいまや約4人に1人が週に60時間以上働いている計算になる。私生活の充実や健康の維持という観点から考えると適切な長さとはいえない厚労省の過労死の新「認定基準」[11]にも，優に達する長さ

である。

実際，こうした長時間労働を背景に，健康問題の象徴としてのいわゆる過労死・過労自殺も，若年層にとって無縁ではない（表Ⅰ－3）。厚労省資料[12]で「29歳以下」と「30歳代」の脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災認定件数をみると（平成13年末に認定基準が改正されたので14年度以降は認定件数が大幅に増加），脳・心臓疾患では全体の2割から3割を占め，さらに精神障害等の労災認定については4割から6割を占める。今日，職場で深刻化している「心の病」の中心層として30歳代に労使の関心が集まっている[13]。中高年を中心とする人員の削減や新規採用の抑制のもとでの過重な業務量や成果主義的な働かせ方が重い負担になっている。

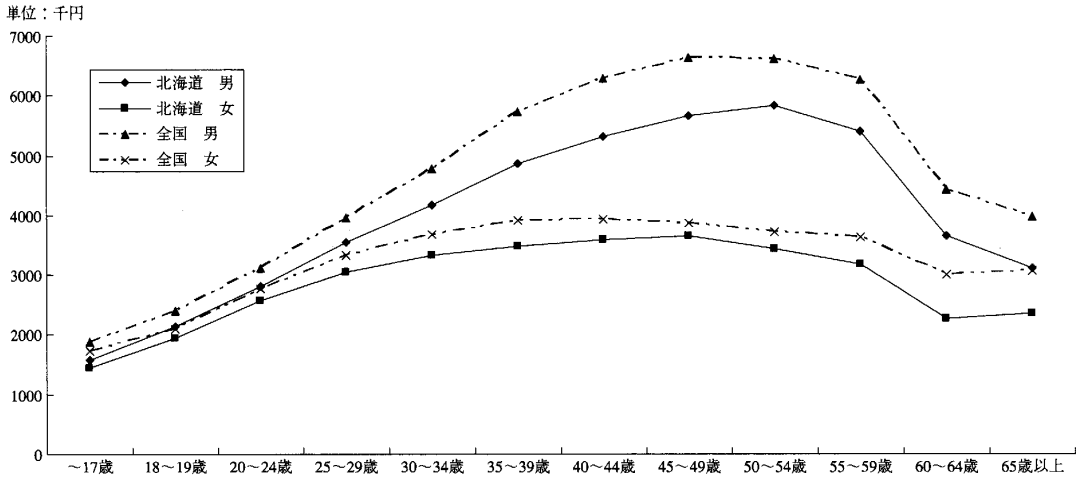
表Ⅰ－3　若年層の脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災認定件数の推移　　単位：件，%

		平成9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
脳・心臓疾患	全体	73	90	81	85	143	317	314	294
	29歳以下	2	5	4	4	8	19	13	16
	30~39歳	14	13	12	17	33	49	52	48
	比率	21.9	20.0	19.8	24.7	28.7	21.5	20.7	21.8
精神疾患等	全体			14	36	70	100	108	130
	29歳以下			4	7	24	25	25	26
	30~39歳			3	8	20	25	40	53
	比率			50.0	41.7	62.9	50.0	60.2	60.8

注：比率は，「29歳以下」と「30～39歳」の合計件数が全体に占める比率。
出所：厚労省「脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災補償状況」各年度版より作成。

最後に賃金水準の問題である。若者の低賃金は，非正規雇用だけに多くみられる現象ではない。正規雇用であっても，いわゆる日本的雇用慣行の柱をなす年功制賃金が若年層の収入をおさえこんでいる。厚労省「賃金構造基本統計調査」で算出すると（図Ⅰ－3），「～19歳」の加重平均値は，男性ではかろうじて200万円に達しているという水準であり，ピークである50歳代前半の584万円の36.1%に過ぎない。女性の場合は「～19歳」では200万円に満たない。300万円という水準に達するのは男女ともに20歳代後半からである。しかも女性は，ピークが40歳代の350,360万円にとどまる。そして，これらの北海道の値は，全国と比べるとどの年齢階級でも10%前後低い。

以上，若年層の雇用・労働にみられる諸特徴として，失業・非正規雇用の増大，長時間労働・健康問題，低賃金などを確認してきた。



図Ⅰ－3　男女別・年齢階級別にみた年収（北海道及び全国）

注：年収の算出は，「きまって支給する現金給与額」×12（ヶ月）＋「年間賞与その他特別支給額」。
出所：厚労省「平成16年賃金構造基本統計調査」より作成。

では，本調査の結果にうつって，若年労働者の労働条件や処遇の実態，離職の背景，また求職活動における労働力需給間の「ミスマッチ」の実態とはいかなるものなのか，みてゆこう。

II．調査の概要

2005年の夏に札幌のヤングハローワークで，求職活動中の若者（ハローワーク利用者）を対象にした質問紙調査を，ゼミナールIIの履修生と一緒に行った。具体的には，8月8日(月)から12日(金)までの5日間の日程で，12時から17，18時まで，フロアの隅で待機し，来所者に対して調査票を配布した。

調査票は二種類用意した。まず離職者を対象としたもので，その内容[14]は大きく四つに分かれている。すなわち，（I）回答者の基本属性：年齢，性別，最終学歴など，（II）最終職について：業種や職種，労働条件や処遇，離職の契機など，（III）現在の求職活動の状況：希望する仕事の条件，就職の見通し，求職活動での困難など，（IV）世帯での位置や暮らし向きなどである。もう一種類は在学生を対象としたものである。調査票の内容は，上記の四つの大項目から（II）の設問を除いただけで，それ以外は同じである。

調査票は来所者の全員に対して配布した。配布時に趣旨説明とあわせて現在の状況を尋ね（離職して求職しているのか，在学中か等），上記の二種類のうちいずれかを渡した。なお，学卒未就職者のうちアルバイトをしながら求職活動をしている者に対しては，離職者用の調査票を渡し，（II）にはアルバイトの状況を記述してもらった。調査票の回収は，その場でも行ったが，持ち帰られた分については，調査票と一緒に渡した研究室宛の返信用封筒を利用してもらった。

225部（一般用161部，学生用64部）の調査票を配布し，112人から回答を得た（趣旨説明の段階で断られたのは20人程度である）。うち，知人の付き合いで来所したという1人が，35歳を超えていたので除いた。よって，分析の対象は111人である。

以下では，(1)無回答・不明分は除いて計算をしているので合計人数は一致しない。(2)本文中に自由記述を掲載した。丸数字（例，「自由記述①」）と調査票の各設問番号との組み合わせは表II－1のとおりである。【　】内の数値は回答者の通し番号である。

表II－1　自由記述の説明

自由記述	調査票の設問番号	内　容
①	II(14)	仕事での困ったことや不満，疑問など
②	II(15)	離職の契機
③	III(10)	求職活動でのプレッシャーなど
④	III(11)	求職活動での障害・困難や，自分の希望とのギャップなど
⑤	III(12)	資格の有無と資格が求職活動で役立っているかどうか
⑥	最後	若者の就職難の原因を若者自身に求める見解への賛否及び関係機関への希望

III．調査の結果

1．属性

回答者は，男性が55人，女性が55人，不明が1人だった。

年齢は10歳代が8人，30歳代は3人（最高は33歳）で，残り全員が20歳代である。後でみるように，在学生や学卒未就職者が半数を占めるため，20歳代前半のウェイトが高く，「21，22歳」と「23，24歳」で6割を占めている。

配偶者や扶養者の有無については，ヤングハローワーク来所者という調査対象の性格が反映されてか，配偶者がいたのは，かつて正規雇用で働いていた男性1人のみだった。

現在の状態にもとづき回答者を次のように

表III 1－1　現在の状態別にみた回答者の属性など

現在の状態		人数	最終職（現職）の雇用形態	性別 男性	性別 女性	平均年齢
離職・在職者群	離職者	42人	正　規25人	15人	9人	24.9±3.0歳
			非正規15人	6人	9人	23.5±3.1歳
	在職者	11人	正　規5人	3人	2人	23.4±1.7歳
			非正規2人	0人	2人	29.0±2.8歳
学卒未就職者	バイト中	14人	非正規14人	11人	3人	22.9±2.2歳
	バイトせず	20人		11人	9人	22.7±1.3歳
学生		24人		7人	17人	21.6±2.1歳

注：無回答・不明は除いているので，合計人数は一致しない。

分類した。すなわち，(1)以前に何らかの「定職」[15]に就いていたもの（以下，「離職者」）42人（離職後に進学し現在，専門学校に在学中のもの1人を含む），(2)在職中のもの（以下，「在職者」）11人[16]，(3)学卒未就職者34人。そのうち現在アルバイトをしながら求職しているものが14人，アルバイトをしていないものが20人。(4)在学中のもの（以下「学生」）24人である。なお(1)「離職者」と(2)「在職者」をあわせたものを，以下，「離職・在職者」群とする。表III 1－1にその特徴などをまとめた。なお，この分類などによるクロス集計一覧表を資料に掲げたので参照されたい。

2．若年層の労働条件・処遇など

2では，「離職・在職者」群の調査結果にもとづき，若年層の労働条件・処遇の特徴についてみてゆく。

男性正規雇用を中心にみられる働き過ぎの問題

「離職・在職者」群52人のうち正規雇用は30人（57.7%）である。この30人のうち性別不明1人を除く18人が男性である。この男性正規雇用労働者を中心に，いわゆる働き過ぎ・過重な労働負担の問題についてみてゆこう。

まず彼らの一日の労働時間は（表III 2－1），全体の8割が10時間を超えており，さらには13時間以上という回答も3割弱を占める。一週間の労働時間についても，50時間以上が8割弱を占めており，一ヶ月の休日が「4日未満」であるものも4人に1人の割合でみられる（表III 2－2）。

また，いまや学生バイトでも珍しくないサービス残業も，「あった」が83.3%（女性正規雇用では54.5%，学卒未就職者のアルバイトに限っても30.8%）に達し，サービス残業を含む一ヶ月の残業時間は（表III 2－3），先述の厚労省の労災認定基準（「45時間以上」）の近似値である「40時間台」以上は4割に達している。

表III 2－1　一日及び一週間の労働時間

単位：人，%

		18	100.0
一日の労働時間	8時間台	2	11.1
	9時間台	1	5.6
	10時間台	6	33.3
	11，12時間台	4	22.2
	13時間以上	5	27.8
		17	100.0
一週間の労働時間	40時間台	4	23.5
	50時間台	1	5.9
	60時間台	2	11.8
	70時間台	7	41.2
	80時間以上	3	17.6

表III 2－2　一ヶ月の休日

単位：人，%

	17	100.0
4日未満	4	23.5
4，5日	5	29.4
6，7日	2	11.8
8，9日	5	29.4
10日以上	1	5.9

表III 2－3　一ヶ月の残業時間

単位：人，%

	18	100.0
ほとんどなし	4	22.2
10時間台	2	11.1
20時間台	2	11.1
30時間台	3	16.7
40時間台	1	5.6
50時間台	1	5.6
60時間台	1	5.6
70時間台	4	22.2

こうした長時間労働を反映して，後にみる「離職の契機（複数回答可）」で「自分の体調不良・病気のため」を選択した6人は，全員が正規雇用だった（正規雇用全体の5人に1人が選択したことになる）。そこで彼・彼女ら6人の労働条件を詳しくみるため抜き出したものが表III 2－4である。

6人のうち【10】～【39】の4人は一日の労働時間が10時間～14時間で，一週間の労働時間は，**「過労で倒れたため（但し，仕事だけでなく家庭事情も重なったため）」**離職した【10】の「80時間以上」を筆頭に，「60時間台」が2人，「50時間台」が1人である。一ヶ月の休日については，【22】は10日だが，それ以外は完全週休2日制以下である。

後述するが，離職にはこうした長労働時間以外の要因も重なっている。例えば【10】は人間関係（**「悩みや不安を上司が聞いてくれない。人間関係が悪い」**）を，【25】は残業の強制（**「残業・休日出勤が当たり前でほとんど義務化していた。断れない状態。」**）を，それぞれ訴えている。また，その内容は明示されていないが，人権侵害的な状況に直面するケースもある（**【22】「暴力・肉体的制裁・名誉毀損」**）。

また，残りの2人（【57】【85】）は，週の労働時間こそ「40時間台」で月の休日も8日確保されていたが，【57】は職種・仕事の内容による強いストレスを示唆する回答（**「体力的に無理があった。ストレスで体調を崩したため。」**）を，【85】は要員不足と，理想とのギャップを，あげている。

> **【85】介護度が高くなるが（高い要介護者の多い職場だが——調査者），人員的余裕がなかった。この先仕事をやっていても，自分自身の仕事に対する充実感・やりがいがみつけられないとの思いが高まり，それと比例して仕事に対するモチベーションが低下**

表III 2－4　体調不良・病気を契機（の一つ）として離職したものの労働条件等

番号	性別	年齢	職種・仕事の内容	月の手取り	一日の労働時間	一週間の労働時間	月の休日日数	サービス残業の有無
10	男性	30歳代	広告制作　データエントリー	14万円	14時間	80時間以上	7日	あった
22	男性	20歳代前半	印鑑・表札の訪問販売・アフターサービス等（飛び込み）	20万円	12時間	60時間台	10日	あった
25	女性	20歳代後半	自動車部品製造	20万円	10時間	60時間台	4日	なかった
39	女性	20歳代前半	旅行予約受付	18万円	12時間	50時間台	6日	なかった
57	男性	20歳代後半	警察官	20万円	9時間	40時間台	8日	なかった
85	不明	不明	介護職	15万円	8時間	40時間台	8日	あった

注：一週間の労働時間については，10時間刻みの選択肢から回答。

していた。仕事に対する熱意の差から周りとの関係がうまくいかなくなっていた。」

別調査で補足すると，施設介護の現場では，要員不足で夜勤も多いが，賃金は低く，しかも，賃金の高いベテランから若い職員への置き換えが進んでいるにもかかわらず教育訓練の体制は整備されていなく，ストレスを抱えて働いている若者が多いという[17]。

ところで，内閣府の無業者調査では，「非求職型」無業者の非求職理由で多いのは「病気・けがのため」だった[18]。上記6ケースのような過重な労働負担による心身の悪化や，働くことを忌避させるような職場での経験（例えば後述の【64】も参照）が，ともすれば若者自身の問題として認識・批判されがちな非求職という行動に反映されている可能性は小さくあるまい。

なお，以上のような心身を壊すほどの長時間労働だが手取りはそう高くはない。すなわち男性正規雇用全体の6割が月の手取りは20万円未満に位置している。また，社会保険の加入状況についても，男性では，「分からない」の1人を除き全員が加入しているが，女性では未加入も2人みられる。

基幹労働力としての非正規雇用

次に，非正規雇用の労働条件・処遇についてみてみよう。対象は同じく「離職・在職者」群中の，17人（男性6人，女性11人）である。

今日，短時間就労で周辺的・補助的な業務に従事する非正規が増大する一方で，正規から非正規への置き換えが進み，基幹的な業務に低い処遇で従事させられる非正規も増大している。

本調査結果でも，例えば，映写技師として6年半「パート」で働いていた女性【1】は，**「パートなのに仕事に関する責任が重い。」**と不満を述べる。彼女の労働時間は一日8時間，週「40時間台」，月の残業は「10時間台」でサービス残業も「あった」。

あるいは現在教育現場で大量に「活用」[19]されている期限付きの臨時教員として働いていた男性（【6】）は，**「月9～10万で1日AM7：00～AM1：00（PM1：00？――調査者）などの勤務が多かった。上の仕事はすべて下の人がやることが多かった。」**という。彼の労働時間も決して短いものではない。一日8時間，週「40時間台」，月の残業時間は「20時間台」で，**「残業等は外向きに見えないようにコソコソとやらなくてはならなかったこと」**を不満としてあげている。サービス残業も「あった」。彼の離職の契機は，雇用契約期間の満了と，こうした労働条件・処遇への不満だった。

あくまで労働時間の長さだけでの評価だが，こうしたケースにみられるように，彼・彼女らの仕事は楽なものではない。一日8時間未満・週40時間未満のものは2人のみで（表III 2－5），一ヶ月の休日日数についても（表III 2－6），完全週休二日制にあたる8日以上は全体の半数強にとどまる。一ヶ月の残業時間こそ（表III 2－7），正規雇用と比べるとほとんどなし（29.4%）や「10時間台」（47.1%）に傾斜してはいるが（但し逆にいうと，残業ありが7割に及ぶことには留意が必要だろうが），サービス残業の経験者比率も正規雇用に負けてはいない（68.8%）。

だが処遇は（表III 2－8），社会保険加入者は全体の64.7%にとどまり，一ヶ月の手取りは15万円未満に8割強が集中する。そして後述のとおり，正規雇用とは異なり，「雇用契約期間の満了」での離職が多い（43.8%）という，不安定な働き方を余儀なくされた層なのである。

若者の離職の背景――「自発的」離職か？

若年層の離職は，離職までの期間が短く，また離職理由も，「会社都合」「非自発的」ではなく「自己都合」「自発的」のウェイトが

表III 2－5　一日及び一週間の労働時間

単位：人，%

		17	100.0
一日の労働時間	6，7時間台	2	11.8
	8時間台	11	64.7
	9時間台	3	17.6
	10時間台	1	5.9
		16	100.0
一週間の労働時間	30時間台	2	12.5
	40時間台	13	81.3
	50時間台	1	6.3

表III 2－6　一ヶ月の休日

単位：人，%

	17	100.0
4日未満	1	5.9
4，5日	4	23.5
6，7日	3	17.6
8，9日	6	35.3
10日以上	3	17.6

高いことを特徴としている。こうした特徴が若年層に対する厳しい見方を助長する一因にもなっている。

さて，本調査においても回答者の勤続年数は短い。3年未満が全体の8割弱を，さらには1年未満も4割弱を占める。だがその理由をみると単純に「自発的」と解釈はできない。例えば，上で確認したように，労働条件・処遇の面での問題は少なくない。重複する部分もあるが，若者の離職の背景をみてみよう。

彼らに「働いていて困ったことや不満，疑問など」があったか尋ねたところ「あった(ある)」は例えば正規雇用では7割に及んでいた。その内容はいかなるものか。自由記述をみると（残りは資料2の「自由記述①」。以下，同様。），サービス残業や長時間労働に関する訴えが多い。なかには，過労で身体を壊すに至ったケースもみられる。

表III 2－7　一ヶ月の残業時間

単位：人，%

	17	100.0
ほとんどなし	5	29.4
10時間台	8	47.1
20時間台	2	11.8
⋮		
50時間台	1	5.9
60時間台	1	5.9

表III 2－8　社会保険の加入状況及び一ヶ月の手取り

単位：人，%

		17	100.0
社会保険の加入状況	加入していた（している）	11	64.7
	加入していなかった（していない）	5	29.4
	分からない	1	5.9
		17	100.0
平均的な一ヶ月の月収（手取り）	10万円未満	2	11.8
	10～12.5万円未満	8	47.1
	12.5～15.0万円未満	4	23.5
	15.0～17.5万円	3	17.6

【2】 サービス残業がほぼ毎日。
【7】 労働時間。
【23】 休みが少ない。不定休。週休2日だけど潰れて結局月2～3日程度。
【25】 残業・休日出勤が当たり前でほとんど義務化していた。断れない状態。
【36】 勤務終了時間が遅い。
【60】 自分の職種とまったく違う仕事をやらされていた。サービス残業はあたり前で，休日出勤しても，それもサービス残業になってしまう。
【64】 ●時給で働いていた。●退出時間を，打刻するわけではなく，ペンで記入。30分刻みで時間を書き，提出をすること。●8時間を超える労働の場合も，加算がなかったこと。入社時に，加算は上司から残業の依頼を受けた場合のみされるもので，自分の仕事が終わらなかったという理由では加算されないと所長より説明を受けたこと。●求人の職務内容と実際の仕事内容が全然違っていたこと。●17：30までの勤務の

契約が実際には，20～22時位まで働かされたこと。(暗に時間通りに帰ればやめさせるようなものを感じました。)

【91】 働かされすぎて病気になった。

問題は労働時間の長さだけでない。ここで，聞き取りも行ったａ氏の例を紹介しよう。以下のような，毎日のルーチンワークと長時間労働，そしてサービス残業の恒常化のもとで「将来的なことを考えて辞めようと思った」という氏の3年目での離職を，経験が浅い若者の早まった行為とはいえまい。長時間労働もさることながら，やりがいのある仕事の機会の喪失は，若年層をとりまく大きな問題となっている[20]。

大学を卒業後，道内大手の食品製造会社で営業職として勤務。仕事の内容は，前日に売れた商品のデータを整理してその分だけの商品を各店舗に納めてゆくというもの。通常の勤務時間は朝の6時半から18時半ぐらい。自宅は6時過ぎにはでていた。繁忙期である10月から12月のあいだは，朝の5時から製造部門の手伝いもし，仕事を終えるのは19時から21時で，「目の下にくまをつくって」「休みなし」で働いていた。残業代は上司の裁量で「9割9分つかない」ため，月の総支給額は繁忙期でも23，24万円だった。こうした定型的な業務，長時間労働による過重な労働負担と，将来的な展望の見えなさを理由に離職。

質問紙調査に戻ろう。詳しい状況は必ずしも明らかでないが，自由回答からは，長時間労働に加えて，仕事を教わることができない，悩みや不安に付き合ってくれる先輩・同僚がいないなど，新たに入職してきた若者を育てることができない，職場のゆとりのなさがみえてくる。それはときには職場で深刻化するセクハラ，パワハラなど文字通りの「人権問題」にも発展する（例えば先述の【22】**「暴力・肉体的制裁・名誉毀損」**や，以下の【64】)。

【30】 忙しい店舗だからかもしれないが仕事を教えてくれる人が決まっている訳でもなく数人から色々とバラバラに教わっていたこと。

【59】 学生の時みたいに誰かが助けてくれることは，ほとんどなく，何でも1人でしなければいけなかった。とても困った。

【64】 ●一緒に働いていこうとしている人間に，仕事がちゃんとできるのか会社，取引業者，エンドユーザーを使い，試したこと。(ex) 出張に行ったことにして，事務所の外から中を監視。過重振込みをしたことにして，怒なりつけ，所員に払い戻しに行かせ，問い正したら，所長が割って入り，過重じゃなかったと弁明。●工場への部品の手配をしなかったと責められたこと。実際は，嫌がらせをされ，手配はしていたが，送ってもらえなかった。数々の不等な扱いを受けました。まだまだ沢山あります。

こうした職場での困難や不満などは若者を離職にいざなう。離職の契機を尋ねたところ（表Ⅲ2－9)，「労働条件や処遇に不満」が42.2%で最も多い。ついで高率なのが「職場の人間関係」(31.1%) である。これら二つの項目は独立してではなく，からみあっても存在する。例えば【2】の**「上司のワンマン。労働基準がまったく基準通りではない。」**はその典型だ[21]。加えて，収入面やキャリア面での展望のなさが回答されている（資料・「自由記述②」。前掲【85】も参照)。

【63】 手取り年収が200万円にみたないので，一人暮らしをしていると貯蓄があまりできない。そして，今後も収入，キャリア共にアップできる機会がないため。

3．求職活動の状況

3では，回答者全体を対象に，求職活動における状況をみていこう。まず，幾つかの特徴を簡単に整理しておく。

表III 2－9　離職の契機（複数回答可）　単位：人，%

	全体		正規		非正規	
	45	100.0	29	100.0	16	100.0
事業所閉鎖・会社倒産等	1	2.2	0	0.0	1	6.3
解雇・人員整理	3	6.7	3	10.3		
雇用契約期間の満了	7	15.6	0	0.0	7	43.8
勤め先事業の先行き不安	7	15.6	6	20.7	1	6.3
労働条件や処遇に不満	19	42.2	13	44.8	6	37.5
当初に示されていた労働条件との相違	6	13.3	4	13.8	2	12.5
職場の人間関係	14	31.1	11	37.9	3	18.8
他にやりたい仕事や活動があった	9	20.0	7	24.1	2	12.5
自分の体調不良・病気のため	6	13.3	6	20.7		
その他	1	2.2	1	3.4		

注：学卒未就職者は含まず。

①現在の求職活動の方法は，調査の性格上，ハローワークへの登録が97.2%，求人誌などの利用が57.5%，ジョブカフェへの登録が54.7%である。

②ハローワークに登録した時期は，本調査を実施した8月あるいはその前の月（7月）が全体の4割を占めている一方で，学卒未就職者など，17年度より前（17年3月前）という比較的早くから登録し求職活動を続けているものも全体の3割強みられる。

③具体的に費やしている時間の長さは不明だが，求職活動に「非常に時間を割く」割合は，学卒未就職者でじゃっかん高いことを除き，全体では1割強にとどまる。

④現時点までの求職（応募）件数については，ハローワークに登録したのが最近のものが少なくないため，「0件」が3割を占めている（無回答24人のなかにも応募「0件」が含まれると思われる）。が，他方で学卒未就職者や在学者を中心に応募件数の多いものもみられる。

若者は仕事を選り好みし過ぎているのか？

仕事はあるのに若者は選り好みし過ぎである，という見解は根強く存在する。妥当だろうか。あるいは，需給間のミスマッチで雇用に結びつかないという，それ自体は正当な見解がある。だが，そうした見解の後には，だからこそ若者自身はそのミスマッチの解消に努めなければならない，という主張が続く（employ abilityの獲得）。だがそれはどこまで可能なのだろうか。求職活動の状況をみていこう。

彼らはどんな仕事を探しているのだろうか。まず雇用形態をみると，「フリーター」もじつは正規雇用志向が強いという各種調査での指摘とも重なるが，本調査でも，「正社員」を望むものがほぼ全員である（102人中99人）。

次に，毎月の手取りの希望額はそう高くはない。15，16万円が4割を占め，全体の9割が20万円以下である。学生の希望はむろんのこと，学卒未就職者も離職・在職者群も同様の傾向にある。

では求人条件でとくに重視しているものはなにか（表III 3－1）[22]。まず多いのは，(ア)正社員であること（50.9%），そして(ア)と重複するが(オ)各種の社会保険が整備されていること（42.5%）である。加えて，多いのが(ク)仕事の内容（50.0%）である。学卒未就職者に限定するとこの(ク)の値は7割に及び，彼らの仕事へのこだわりが示唆される。この点を除けば，若者が求職活動で選り好みをしているわけではさしあたりなさそうである（この「こだわり」については後で検討）。が，就職（再就職）の見通しはどうか。全体では34.0%が，学卒未就職者では45.2%が「非

表III 3-1　求人条件でとくに重視しているポイント（2つ以内）

単位：人，%

	全体		離職・在職者群		学卒未就職者		学生	
	106	100.0	50	100.0	32	100.0	24	100.0
(ア)正社員であること	54	50.9	30	60.0	13	40.6	11	45.8
(イ)収入がよいこと	18	17.0	10	20.0	2	6.3	6	25.0
(ウ)各種手当があること	7	6.6	6	12.0	1	3.1	0	0.0
(エ)残業の少ないこと	4	3.8	2	4.0	0	0.0	2	8.3
(オ)雇用・医療・年金など各種の社会保険に加入していること	45	42.5	24	48.0	15	46.9	6	25.0
(カ)会社の場所	29	27.4	10	20.0	9	28.1	10	41.7
(キ)会社の知名度	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	4.2
(ク)仕事の内容	53	50.0	20	40.0	22	68.8	11	45.8
(ケ)その他	5	4.7	2	4.0	1	3.1	2	8.3

常に難しい」と回答している。

「即戦力」志向という高い壁

では彼・彼女らの前に立ちはだかっているのは何であるのか。求人条件での不満や就職に際しての障害について尋ねたところ（表III 3－2），最も多いのは，(ク)経験が要求されていることで，回答者全体の6割，学卒未就職者に限ると全体の8割に及んでいる（資料・「自由記述④」）。

> 【10】 別職種に行こうとした時，年齢・経験がひっかかる。
> 【42】 経験者を要求するものが多いので，結局その職種を経験するためにアルバイトをしたりすると，正社員になるまでの時間があいてしまい，余計に再就職する事が困難になりそう。
> 【64】 興味のある職業と今の自分の資格，経験に開きがあること。今ある現実。〝もっと若ければ……〟という気持ち。
> 【65】 年齢や経験が要求されるのが多くて新卒ではなかなか良い所がなくて困難。

関連していえば，資格取得熱の高まりのもとで，回答者の約7割が，語学系やパソコンソフト操作など何らかの資格を取得している（資料・「自由記述⑤」）。だが，例えば「とりやすいものからとる」という学生の主張に象徴されるように，これらの資格の取得が就職の展望や就労意識の高まりと必ずしも結びついているわけではないようである。

表III 3-2　求人条件での不満や就職に際しての障害

単位：人，%

	全体		学卒未就職者	
	102	100.0	32	100.0
(ア)正社員での募集が少ない	37	36.3	8	25.0
(イ)賃金が低い	33	32.4	8	25.0
(ウ)労働時間が長い	7	6.9	1	3.1
(エ)仕事の時間帯があわない	5	4.9	1	3.1
(オ)仕事がきつそう	3	2.9	1	3.1
(カ)社会保険に加入している募集が少ない	9	8.8	1	3.1
(キ)年齢制限	17	16.7	3	9.4
(ク)経験が要求されている	63	61.8	26	81.3
(ケ)高度な技術や資格が要求されている	25	24.5	11	34.4
(コ)その他	10	9.8	3	9.4

以上は，OJTを中心とした人材育成システムを縮小し，「即戦力」志向を強めている企業側の採用行動の変化[23]を少なからず反映した結果といえよう。わが国の職業訓練に関する歴史的背景を無視して，就業経験の浅い（ない）若者自身にミスマッチの解消を求めるのは酷なことといえよう。付言すれば，わ

が国でNEE「T（training)」という言葉を使うのは，職能形成に関する公的な条件整備を図ってこなかったという事実に，言い換えれば，「training」に進むというルートは一般的でないという事実に，そぐわない。公的な職業訓練機関の整備が急がれる。

さて，経験の要求以外で多い障害・困難は，(ア)正社員での募集の少ないことや(イ)賃金の低いことでそれぞれ全体の3割を占めている。これらの不満は女性でやや多い（各4割)。

なお，先に明らかな「人権問題」にあたると思われるケースを示したが，それ以外でも，過去の就業経験が企業不信を招き，求職活動でマイナスに働いているケースもみられる(**【32】「前の会社で休日や残業について偽っていたので，疑ってしまう。」【108】「前職で企業というものにかなり不信感を持ってしまったのでなかなか応募にふみきれない。」**)フレキシブルに働くことが要求されるわが国「企業中心社会」に適応できない「甘い」考えと一蹴されるべきものだろうか。

強いプレッシャー，不安と混乱

こうした高い壁に阻まれるなど，求職活動は「プレッシャーを感じたり気持ちがまいったりする」ものでもある（66.3%)。むろん健全なプレッシャーは若者の成長にとっても不可欠だ。だが，自由記述を読めば，例えば，理由を説明されることなく面接で繰り返し不採用を経験したり，理不尽な扱いを受けたりするなかで，求職意欲を喪失してゆく姿もみえてくる[24]（資料・「自由記述③」参照)。

【30】 自分のどういう部分をアピールしていっていいかみつからないところ。(応募件数は50社，面接件数は10社。以下，同様。)

【44】 大人しく引っ込み思案な性格なので，求人票にある人材像（例えば，前向きで積極性がある，行動力があるなど）とギャップを感じ，自分は社会に出てやっていけるのだろうかという不安を感じてしまう。(5社，1社)

【49】 面接で自分自身の事を問われるのではなく，家族の事について問われる。(20社，4社)

【70】 履歴書を送ってもつき返される。何が落ちた理由なのかがはっきりとわからない。不安ばかりで自信を失う。(20社，5社)

【72】 どうして落ちたか分からない時。(5社，4社)

【83】 一生懸命履歴書を書いてもそれが面接で全く聞かれずに落とされたりするとやる気を失う。(20社，7社)

重複するが，もう少しみてゆこう。例えば，まわりで就職が決まってゆくなかで焦りを感じたり，子どもの心配をする親の存在が本人にとってプレッシャーになっている姿がみられる。現在の心境で「非常に焦りを感じている」「多少焦りを感じている」のが全体ではそれぞれ34.3%，31.1%である（学卒未就職者では各50.0%に及ぶ)。なかには，卒業して友人との交流も疎遠になったのか，社会的に孤立したようなケースなどもみられる。

【24】 このまま試験にも受からないで就職できなかったらということを考えるとプレッシャーになる。両親に申し訳ないという気持ちもある。(学卒未就職者，「(在学中に——調査者）たくさんエントリーしたので覚えていない」，15社)

【55】 学校（美容関連の専門学校—調査者）にも通って卒業もしたのに，今は何もしないで両親を頼っていること。周りの友人は，みんな働いているのに，自分は何をしているのだろうと思う。(離職者，20社，5，6社)

【110】 親としては心配してのことなのだろうが，就職活動に関していま現在非常にプレッシャーを受けている。大学卒業から時間が経過しておりいまなお就職できないことを申し訳なく感じており，収入もないため非常に弱い立場であるが，日常生活が若干息

苦しい。(学卒未就職者，10社，5社)

【8】 ニートの気持ちがわかる。実家にいると本当の意味での危機感が薄れていく。しかし家族の生活は苦しくなる。自分とまわりとの気持ちのギャップが生じてくる。大事にいこうとしすぎて失敗がこわくなって何もしなくなる。(離職者・飲食業・パート・アルバイト，5社，5社)

【88】 短大を卒業し，何もしていない状況で求人をただ見ているだけなので，これから，どう生きていけばよいのか，たまに，分からなくなります。正直に言うと不安です。(学卒未就職者，21社，0社)

【93】 引きこもる。親不孝している。(学卒未就職者，「数え切れない」，20社)

あるいは，自分に適した仕事をさがし続け混乱や不安を抱えるに至るケースもみられる。この点に関連して補足する。

先に，求人の条件で「仕事の内容」にこだわるものが多いことを確認したが，ではどういう仕事（仕事の内容）を探しているのか，自由記述で回答してもらったところ，「未定」「とくに決まっていない」という記述，あるいは無記入をあわせると全体の3割(28.8%)を占めていた。「仕事の内容」を選択した53ケースに限定しても，無記入は12ケース(22.6%)と少なくない(選択していないケースでは28.3%)。つまり，「仕事の内容」にこだわりを示しながらもその具体的な内容まで自覚されているわけでは必ずしもなく，自分に適した仕事を探し続ける状況も一部にみられるのである。

【2】 何が自分にあっている職かわからなくなる。(離職者。最終職はパチンコ店・正社員，0社，0社)

【64】 働きたい気持ちはあるが，何に就いたらよいか，年齢，資格，学歴などに制約があり，決めかねていること。(離職者。最終職は経理・契約社員，5社，1社)

【84】 自分の希望職があるのか。親が心配するので家から通える距離で仕事が見つかるか。(離職者。最終職と応募・面接件数は不明。)

【89】 就職出来るかという不安以上に，決まったとして，そこでいいのかという不安の方が大きい。(学生，2社，1社)

ここまででみてきたような，求職活動でつぶれてしまったり，あてどなき適職探しを続ける彼・彼女らの姿はどう評価されるべきものだろうか。「軟弱」であり「贅沢」「甘え」であるのだろうか。これこそまさに「NEET」に通ずる姿だと指弾されるものだろうか。

だが，こうした就業意識や行動についても，彼・彼女らが生きてきた（生きている）環境との関連ぬきで解釈されるべきではなかろう。それは例えば，「ナンバー・ワンにはならなくていい」けれどもオンリー・ワンを煽られる環境[25]や，急速に解体する社会のもとで他者とのつながりや信頼感を育む機会に十分に恵まれなかったこと[26]などである。言い換えれば，上記の回答者の姿は，若者を受け入れ成長させる条件を喪失してきた社会のありようを反映したものというべきではないか。

4．世帯や暮らし向きの状況

最後に，世帯での位置や暮らし向きについてみてみる。但し，踏み込んだ質問は設けていないので(注釈14)，簡単にとどめる。

親世代への若者の経済的依存は「パラサイト・シングル」という言葉で揶揄・批判されるが，本調査ではどうか。回答者の，世帯での位置は，「世帯員」が多い(69.9%)。よって主たる家計支持者も「親」が7割強と多い(別居のケースでは，「仕送り」による支持を意味していると思われる)。この点は，ウェイトこそ異なるが，在職者や離職者でも同様である。親との同居がどの時点からなのか(離職後なのか，以前からなのか)は不明だ

が，離職者でも61.5%が世帯員である。さらに，在職者でも45.5%が世帯員である。よって，いまの暮らし向きについても，「非常に苦しい」は12.5%にとどまり，扶養家族を抱えた中高年の失業者・求職者と比べると，困窮度は低いと推測される。

だが，先にみたとおり，回答者の月収（かつての月収）は，正規雇用であっても手取りで20万円未満が6割を占めるという水準にあった。しかも，とりわけ男性では労働時間が長く，家事等に費やす時間の確保は困難だったろう。そういう状況下で親との同居を選択するのはある意味において自然なことといえまいか。

Ⅳ．まとめに代えて

「フリーター」に加えて「NEET」という言説の氾濫のもとで，若者に厳しいまなざしがそそがれている。だが，ヤングハローワーク来所者を対象にした本調査で示されたのは，問題状況の列挙ゆえにややミゼラブルに過ぎるきらいがあるが，次のようにまとめられるだろう。すなわち，求職活動では，「即戦力」志向という高い壁に阻まれ，納得いく理由が必ずしも示されないまま不採用を繰り返し経験する。就職しても，正規雇用を選択したのならば長時間労働はむろんのこと，サービス残業という法に反した行為にも適応しなければならない。非正規雇用をやむなく選択すれば，要求される仕事は必ずしも楽なものではないが処遇は低く雇用は不安定である。よりよい仕事を求めて「自発的」に離職をして求職活動をしていてもまわりの重圧を感じざるを得ない。高額の収入を求めているわけでは必ずしもなく，希望は，安定した雇用という点だが，その希望さえいまは「高望み」になりつつある，等々。

若者のこうした雇用・労働をめぐる問題状況は，「NEET」議論からは抜け落ちたものである。また，これらの問題の解消は若者だけの課題ではあるまい。例えば次に列挙したような政策上の課題はわが国労働者に共通したものだろう。

第一に，労働時間規制である。その方法は直接・間接様々だが，法律に違反した行為である不払残業[27]の早急な解消をあげることに異論はあるまい。また，大量失業の一方で，職場では過労で離職に至るケースさえ珍しくないという事態の解消のためには，仕事の分かち合い・ワークシェアリング，なかでも「一律型」[28]の導入が急がれる。その際に，正規から低処遇の非正規への置き換えが野放しで進むわが国で「同一（価値）労働同一賃金」原則もセットで導入される必要があるのは言うまでもない。

第二に，非正規であっても安心して働ける働き方・処遇の整備が必要である。それは（とくに現状では）若者を低位の位置に固定化させる危険性をはらんでいる。だが，非正規雇用の増大が避け得ない状況下で闇雲に正規雇用への「脱出」を煽るのは，「フリーター」に押し込まれる層に烙印を押し，彼らの労働条件・処遇を放置することにもなりかねない。さらにいえば，「低い就労意識」「覇気がない」と否定的に解釈されがちな若者の意識と解離する可能性もある[29]。ちなみに，非正規を中心にワーキング・プアの拡大するいま，安心して働ける条件の整備に関して真っ先にあげたいのは，賃金のナショナル・ミニマムたる最賃制度の改善である[30]。

第三に職業教育の充実である。OJTを中心とした，企業のかつての人材育成システムが「会社人間」の形成に「寄与」したことを考慮しても，公的基盤の整備・拡充は不可欠だ[31]。ヨーロッパ諸国（イギリスを除く）に比べて低いわが国の雇用対策費（対GDP比で0.76)[32]の量的・質的充実が急がれる。もちろん，ここでいう職業教育とは，働くものの権利等について知らされずに職業生活を始

め，文字通り「使い捨てにされる」若者が珍しくない状況を考慮しても，資格の取得等に限定した狭義のそれでも，現行のインターンシップにとどまるものでも，ない。「その職業で生活と権利を守ってゆくにはどうすべきかという闘いのすべ」[33]を含む，豊富な内容の職業教育の実施である[34]。

何よりもいま求められているのは，若者の雇用・労働をめぐる実態を把握しそれを政策に反映させるルートの確立である。それには若者自身の参画が欠かせない。楽観視は許されないが，「若者の就職難の原因は若者自身にある」という一般的な解釈を「受け入れて」現状に適応することを自らに厳しく課すケースの一方で，「私」が直面している問題は社会構造上の問題にある，言い換えれば，「私たち」の問題であると意識しているケースも少なからずみられる（資料・「自由記述⑥」）。「定職に就け」という重圧のもとで雇用の流動化政策が推進されている，そんな不条理に翻弄される若者を受け止め，そこから外側の状況を変革してゆく，そういう機能をあわせもった，「居場所」が求められている。それは労働組合の姿と重なる[35]。

謝　　辞

本調査実施にあたり，ヤングハローワーク札幌の職員の方々にはたいへんお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

1　児美川孝一郎「フリーター・ニートとは誰か――つくられるイメージと社会的視点の封印」佐藤洋作・平塚眞樹編著『ニート・フリーターと学力』明石書店，2005年。また，氾濫する「NEET」言説への批判の書として本田由紀ら『「ニート」って言うな！』光文社，2006年を参照。

2　本調査はゼミナールII・3年生の活動として実施したものである（履修生は伊藤阿沙美，近江志乃，香川透，黒田望美，故島圭介，川口直彦，紺野祥子，里見恵子，杉村俊行，輪島大介，萩浦千尋の11名）。調査の結果は学生の手でまとめられ，その「成果」は2005年12月に中央大学で開催された「第52回 日本学生経済ゼミナール」で報告された。但し，学生の技術レベル上の制約もあり，分析は単純集計にとどまっていたので，川村が本稿をまとめた。

3　本調査の限界をあらかじめことわっておくと，離職者あるいは離職を考えている者（在職者）の働き方は若者の「平均的な」働き方よりも厳しい内容と思われる。また，非求職者や非希望者の就業行動や意識は対象ではない。以上を踏まえた上で，若者の雇用・労働をめぐる問題状況を検討したい。

4　政策の方向性と限界については，本田由紀『若者と仕事――「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会，2005年の第6章「若者に力を与えるために――若年雇用政策の問題点と新たな提案――」を参照。

5　実際には，若者の早期の離職の背景には，労働市場の厳しさ，すなわち失業率が高く希望する仕事の少ない状況下で不本意な就職を余儀なくされることがある。玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社，2001年，p.91～p.96を参照。

6　内閣府『平成15年版　国民生活白書』ぎょうせい，平成15年，p.84～p.85。

7　乾彰夫「「戦後日本型青年期」とその解体・再編」『ポリティーク』Vol.3，旬報社，2002年。

8　厚労省発表資料「一般職業紹介状況（平成17年12月分及び平成17年分）について」2006年1月31日。http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/ippan/2005/12/index.html

9　同調査は調査の実施頻度が5年に1度と少ないこと，また労働力調査と異なり「ふだんの就業・不就業の状態」を尋ねており，かつ，有業者に在学者が含まれている。

10　『労働力調査年報　平成16年』のデータでは，週60時間以上働く女性は20歳代では5.5%，30歳代前半では4.8%で，その比率は増加傾向にある。

11　同基準では，月の残業時間が45時間を超えると，業務と発症と間の因果関係が強くなってゆくという見解が示されている。

12　厚労省「脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災補償状況」各年度より。ホームページで入手し得た分のみ。最新は2005年6月17日付（平成16年度分）。

13　社会経済生産性本部メンタル・ヘルス研究所『産業人メンタルヘルス白書　2005年版』同研究所，2005年。

14　失業や求職の困難として現れる階層に関する質問項目も調査票に設けたかったが，回答拒否が多くなるかもしれないというハローワーク職員の助言に従い割愛した。世帯の収入生活面などについても，同様の理由で割愛した。

15　但し今日では「定職」が必ずしも正規雇用を意味しなかったり，派遣など就労と失業との境目が不明瞭なケースも想定される。

16　在職者のヤングハローワークの利用は少ないと聞いていたので，労働条件・処遇を尋ねた（II）の設問では「最終職」について回答してもらうよう質問文を設けた。そのため（II）を回答していない在職者が4人いた。残りの7人は現在の仕事について回答したと思われる。

17　特養老人ホーム職員からの筆者聞き取り調査(2005年)・未発表。施設A（80床規模）の例を紹介すると，約45人の職員（看護師・介護師）の9割は10歳代と20歳代である。4割弱は派遣労働者で，残りの職員についても，実践経験がなく専門学校卒がほとんどである。夜勤時には1人で20人弱の利用者を担当するが，緊急時のマニュアル等はない。出勤25日（うち夜勤4日・手当は1回3500円）で，総支給額は19万2千円，手取りは15万9千円。高いプレッシャーや処遇の低さで職員（とくに派遣）の入れ替わりは激しい。こうした要員不足などの条件ゆえ，食事を急がせたり一時的に拘束したりなどの「不適切処遇」はどの施設でも「普通にある」という。

18　内閣府『若年無業者に関する調査（中間報告)』によれば，2002年に213.2万人（15～34歳人口の全体の6.3%）となった「無業者（通学，有配偶者を除く)」のうち，「非求職型」は42.6万人(残りは「労調」の「失業者」に近い「求職型」128.5万人，「非希望型」42.1万）で，非求職理由でもっとも多かったのは，「その他」を除くと，「病気・けがのため」(10.4万人）である。また，この「非求職型」で「今までに何か仕事をしていたことがない」ものの割合は38.0%であり，何らかの就業経験を持つものが多い。www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/shurou/chukan.pdf

19　「増える「期限付き」先生」『北海道新聞』朝刊2005年5月15日付によれば，道内の小中学校で臨時採用される「期限付き教員」の数が，2004年度は1030人となった。5年前に比べると3.8倍に及ぶという。また，「非常勤講師　給料4割減」『北海道新聞』朝刊2005年7月14日付によれば，道立高の非常勤講師の処遇に時給制が導入され，年平均で給与が4割減（前年度比）となった。

20　野村総合研究所「仕事に対するモチベーションに関する調査」http://www.nri.co.jp/news/2005/051205.htmlを参照。インターネットを通じた同調査によれば，回答者の75%が現在の仕事に無気力感，約半数が潜在的な転職志願を感じており，若者の働く意欲を再生できるかどうかが企業の競争軸の一つとなると結論付けられ，仕事の動機につながるミッションの樹立や挑戦機会の創出などが具体的な対策として掲げられている。

21　厚労省『平成14年　労働者健康状況調査報告』でも，仕事や職業生活で感じる強い不安・悩み・ストレスのうち，最も多いのは「職場の人間関係」35.1%で，ついで多いのが，「仕事の量の問題」(32.3%)，「仕事の質の問題」(30.4%)。

22　2つ以内の選択を求めたのに対し，3つ以上を回答したものが6人みられたが，そのまま分析の対象とした。

23　厚労省「職業能力開発の今後の在り方に関する研究会」報告書（平成17年5月30日）の参考資料を参照（http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/05/h0530-3.html)。例えば，(1)労働費用に占める教育訓練費の割合は2002年には0.28%で，1988年の0.38%から下落したままである。(2)「OFF-JT又は計画的なOJT」を実施している企業・事業所は平成14年度は59.5%でピークの86.4%（平成5年）から減少傾向が続いている。

24　厚労省『平成17年版　労働経済白書』p205でも，求職者の「個人本来の姿を追求する」企業側の採用行動が「内定をとれないことが個人そのものが否定されているかのように感じられ，落ち込むとなかなか立ち直れず，自分は就労不適格者だと思い込ませてしまう原因となっている可能性がある」ことが指摘されている。また，明確でない企業の採用基準に翻弄される若者の姿について「採用基準「明確でない」61%，学生の不満を企業知らず」『朝日新聞』朝刊2006年2月5日付と「新卒採用の基準って何？」『読売新聞』朝刊2006年2月1日付。

25　中西新太郎『若者たちに何が起こっているのか』花伝社，2004年，同『思春期の危機を生きる子どもたち』はるか書房，2001年。土井隆義『「個性」を煽られる子どもたち——親密圏の変容を考える——』岩波書店，2004年。

26　平塚眞樹「次代をひらくシティズンの形成」前掲『ニート・フリーターと学力』。

27　厚労省発表資料によると，全国の労働基準監督署によって是正を指導された平成16年度の賃金不払残業（1企業当たり100万円を超えるもの）の総額は約226億円である。http://www.mhlw.

go.jp/houdou/2005/09/h0930-1.html

28　熊沢誠『リストラとワークシェアリング』岩波書店，2003年。ワークシェアリングの類型については同書で取り上げられている脇坂明『日本型ワークシェアリング』PHP研究所，2002年も参照。

29　人格や生活の全てを投入するような働き方を忌避して私生活に重きをおくことや，理不尽な扱いに対して早期の離職を選択するなどの若者の意識や行動は，わが国「企業中心社会」への批判を内包したものとしてとらえ直す必要があるだろう。平塚眞樹「フリーター・青年の移行問題をめぐって」『ポリティーク』Vol.5，旬報社，2002年を参照。また，こうした非正規の処遇の底上げは，これまでの「企業中心社会」体制のもとでの仕事・生活をめぐる「標準」に代わる，「第二標準」の確立を追求する議論と重なる。この点は，新しい生き方基準をつくる会・中西新太郎監修『フツーを生きぬく進路術17歳編』青木書店，2005年を参照。

30　先進諸外国と比べた際のわが国の最賃水準の低さなどについては，厚労省『最低賃金制度のあり方に関する研究会報告書』（平成17年3月31日）http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/03/s0331-7.html や全労連『月刊　全労連（特集　最賃闘争の現在)』2005年6月号などを参照。また，最賃をめぐっては，その水準だけでなく，委員の選定や議論の公開性など決定過程が不透明であるという問題も強調したい。

31　ドイツのデュアルシステムをならい，わが国でも，厚労省と文科省が連携して「若者自立・挑戦プラン」の一環として『日本版デュアルシステム』（企業によるOJTと学校機関によるOff-JT）が平成16年度より一部の高校で試験的に導入された（詳細は，http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syokunou/dual/を参照)。

32　OECD「Employment Outlook 2004」。

33　熊沢誠『働き者たち泣き笑顔』有斐閣，1993年p.125。同書の「Ⅲ．戦後民主主義教育の検証」を参照。

34　加えて，教育に関する経済界の一連の提言などに象徴されるとおり，現代社会で求められる能力は，かつての能力から装いを変えているという。そうした能力の変遷（近代型能力からポスト近代型能力へ）を視野にいれた中長期的な対策も検討課題としてあげられている。以上は，本田由紀『多元化する「能力」と日本社会――ハイパー・メリトクラシー化のなかで――』NTT出版，2005年。

35　首都圏青年ユニオンの活動について，名取学「個人加盟ユニオンの現在，そして未来」『ポリティーク』vol.10，旬報社，2005年。阿久津光「漂流し続ける新しい不安定雇用労働者――社会参加の主体への脱皮を支える労働組合の実験」前掲『ニート・フリーターと学力』などを参照。

参考文献

玄田有史『働く過剰――大人のための若者読本――』NTT出版，2005年

佐藤洋作・平塚眞樹『ニート・フリーターと学力』明石書店，2005年

木村保茂・永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社，2005年

佐藤和夫『仕事のくだらなさとの戦い』大月書店，2005年

熊沢誠『若者が働くとき――「使いすてられ」も「燃えつき」もせず――』ミネルヴァ書房，2006年（本稿脱稿後に発行）

資料1　調査結果一覧表

単位：人，%

		全体		性別				分類								離職・在職者群＋学卒未就職者（バイト中）											
				男性		女性		離職者		在職者		学卒未就職者（バイト記載あり）		学卒未就職者（バイト記載なし）		学生		正規雇用		非正規雇		うち、離職・在職者群のみ		正規雇用				非正規雇用			
																								男性		女性		男性		女性	
		111	100.0	55	100.0	55	100.0											30	100.0	31	100.0			18	100.0	11	100.0	17	100.0	14	100.0
分類	離職者（離職後、進学・在学1人を含む）	42	37.8	22	40.0	19	34.5											25	83.3	15	48.4			15	83.3	9	81.8	6	35.3	9	64.3
	在職者	11	9.9	4	7.3	7	12.7											5	16.7	2	6.5			3	16.7	2	18.2			2	14.3
	学卒未就職者（バイト記載あり）	14	12.6	11	20.0	3	5.5													14	45.2							11	64.7	3	21.4
	学卒未就職者（バイト記載なし）	20	18.0	11	20.0	9	16.4																								
	在学者	24	21.6	7	12.7	17	30.9																								
		110	100.0					41	100.0	11	100.0	14	100.0	20	100.0	24	100.0	29	100.0	31	100.0	17	100.0								
性別	男性	55	50.0					22	53.7	4	36.4	11	78.6	11	55.0	7	29.2	18	62.1	17	54.8	6	35.3								
	女性	55	50.0					19	46.3	7	63.6	3	21.4	9	45.0	17	70.8	11	37.9	14	45.2	11	64.7								
		110	100.0	55	100.0	55	100.0	41	100.0	11	100.0	14	100.0	20	100.0	24	100.0	29	100.0	31	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	17	100.0	14	100.0
年齢	18～20歳	17	15.5	5	9.1	12	21.8	5	12.2	1	9.1	1	7.1	1	5.0	9	37.5	2	6.9	4	12.9	3	17.6	2	11.1			1	5.9	3	21.4
	21，22歳	32	29.1	11	20.0	21	38.2	5	12.2	4	36.4	5	35.7	6	30.0	12	50.0	3	10.3	8	25.8	3	17.6			3	27.3	5	29.4	3	21.4
	23，24歳	34	30.9	24	43.6	10	18.2	11	26.8	3	27.3	6	42.9	12	60.0	2	8.3	10	34.5	9	29.0	3	17.6	7	38.9	3	27.3	8	47.1	1	7.1
	25，26歳	15	13.6	10	18.2	5	9.1	12	29.3	1	9.1	1	7.1	1	5.0			9	31.0	5	16.1	4	23.5	7	38.9	2	18.2	2	11.8	3	21.4
	27歳以上	12	10.9	5	9.1	7	12.7	8	19.5	2	18.2	1	7.1			1	4.2	5	17.2	5	16.1	4	23.5	2	11.1	3	27.3	1	5.9	4	28.6
		109	100.0	54	100.0	55	100.0	41	100.0	11	100.0	14	100.0	19	100.0	24	100.0	29	100.0	31	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	17	100.0	14	100.0
最終学歴（予定を含む）	中・高卒	10	9.2	3	5.6	7	12.7	7	17.1			2	14.3	1	5.3			4	13.8	5	16.1	3	17.6	2	11.1	2	18.2	1	5.9	4	28.6
	高専・短大卒	14	12.8	2	3.7	12	21.8	5	12.2	3	27.3	1	7.1	1	5.3	4	16.7	5	17.2	2	6.5	1	5.9			5	45.5			2	14.3
	大卒	59	54.1	38	70.4	21	38.2	18	43.9	4	36.4	9	64.3	16	84.2	12	50.0	18	62.1	13	41.9	4	23.5	15	83.3	3	27.3	11	64.7	2	14.3
	各種専門学校卒	26	23.9	11	20.4	15	27.3	11	26.8	4	36.4	2	14.3	1	5.3	8	33.3	2	6.9	11	35.5	9	52.9	1	5.6	1	9.1	5	29.4	6	42.9
		111	100.0	55	100.0	55	100.0											30	100.0	31	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	17	100.0	14	100.0
現在の状態	離職し、求職中	41	36.9	22	40.0	18	32.7											24	80.0	15	48.4	15	88.2	15	83.3	8	72.7	6	35.3	9	64.3
	学校を卒業後、未就職で求職中	34	30.6	22	40.0	12	21.8													14	45.2							11	64.7	3	21.4
	在学中	25	22.5	7	12.7	18	32.7											1	3.3							1	9.1				
	在職中	11	9.9	4	7.3	7	12.7											5	16.7	2	6.5	2	11.8	3	16.7	2	18.2			2	14.3
		60	100.0	34	100.0	25	100.0	38	100.0	8	100.0	14	100.0					29	100.0	30	100.0	16	100.0	17	100.0	11	100.0	17	100.0	13	100.0
業種（以下、離職者は最終職、在職者は現在の職についての回答。アルバイトしながらの求職についても同様）	建設業	4	6.7	3	8.8	1	4.0	4	10.5									4	13.8					3	17.6	1	9.1				
	製造業	4	6.7	1	2.9	3	12.0	4	10.5									2	6.9	2	6.7	2	12.5	1	5.9	1	9.1			2	15.4
	通信業	1	1.7	1	2.9			1	2.6									1	3.4					1	5.9						
	旅行業	2	3.3			2	8.0	2	5.3									1	3.4	1	3.3	1	6.3			1	9.1			1	7.7
	卸売・小売業、飲食店	18	30.0	13	38.2	5	20.0	4	10.5	4	50.0	10	71.4					5	17.2	13	43.3	3	18.8	4	23.5	1	9.1	9	52.9	4	30.8
	情報サービス業	4	6.7	4	11.8			4	10.5									2	6.9	2	6.7	2	12.5	2	11.8			2	11.8		
	その他のサービス業	22	36.7	8	23.5	13	52.0	17	44.7	3	37.5	2	14.3					11	37.9	10	33.3	8	50.0	3	17.6	7	63.6	5	29.4	5	38.5
	官公庁・団体	1	1.7	1	2.9			1	2.6									1	3.4					1	5.9						
	その他	2	3.3	2	5.9			1	2.6	1	12.5							2	6.9					2	11.8						
	バイト掛け持ち	2	3.3	1	2.9	1	4.0					2	14.3							2	6.7							1	5.9	1	7.7
		62	100.0	35	100.0	26	100.0	40	100.0	8	100.0	14	100.0					30	100.0	31	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	17	100.0	14	100.0
職種	事務	10	16.1	4	11.4	6	23.1	8	20.0	2	25.0							6	20.0	4	12.9	4	23.5	3	16.7	3	27.3	1	5.9	3	21.4
	営業	10	16.1	8	22.9	2	7.7	6	15.0	3	37.5	1	7.1					8	26.7	2	6.5	1	5.9	8	44.4					2	14.3
	販売	11	17.7	8	22.9	3	11.5	4	10.0			7	50.0					2	6.7	9	29.0	2	11.8			2	18.2	8	47.1	1	7.1
	生産（製造・建設・土木）	2	3.2			2	7.7	2	5.0									1	3.3	1	3.2	1	5.9			1	9.1			1	7.1
	医療福祉・サービス・保安	12	19.4	4	11.4	7	26.9	6	15.0	2	25.0	4	28.6					4	13.3	7	22.6	3	17.6	1	5.6	2	18.2	3	17.6	4	28.6
	専門的技術職	13	21.0	8	22.9	5	19.2	12	30.0	1	12.5							7	23.3	6	19.4	6	35.3	4	22.2	3	27.3	4	23.5	2	14.3
	その他	2	3.2	2	5.7			2	5.0									2	6.7					2	11.1						
	バイト掛け持ち	2	3.2	1	2.9	1	3.8					2	14.3							2	6.5							1	5.9	1	7.1

単位：人，%

		全体		性別				分類						離職・在職者群＋学卒未就職者(バイト中)									
				男性		女性		離職者		在職者		学卒未就職者(バイト記載あり)	学卒未就職者(バイト記載なし)	学生	正規雇用		非正規雇		うち、離職・在職者群のみ		正規雇用				非正規雇用			
																					男性		女性		男性		女性	
		61	100.0	35	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	14	100.0						17	100.0								
雇用形態	正社員	30	49.2	18	51.4	11	44.0	25	62.5	5	71.4																	
	契約社員	8	13.1	4	11.4	4	16.0	8	20.0										8	47.1								
	パート・アルバイト	18	29.5	11	31.4	7	28.0	4	10.0	1	14.3	13	92.9						5	29.4								
	派遣(常用)	1	1.6			1	4.0			1	14.3								1	5.9								
	派遣(登録)	3	4.9	2	5.7	1	4.0	2	5.0			1	7.1						2	11.8								
	その他	1	1.6			1	4.0	1	2.5										1	5.9								
		55	100.0	31	100.0	23	100.0	40	100.0	5	100.0	10	100.0		28	100.0	27	100.0	17	100.0	17	100.0	10	100.0	14	100.0	13	100.0
会社規模	大企業	18	32.7	8	25.8	9	39.1	12	30.0	3	60.0	3	30.0		7	25.0	11	40.7	8	47.1	3	17.6	3	30.0	5	35.7	6	46.2
	中小企業	28	50.9	17	54.8	11	47.8	21	52.5	2	40.0	5	50.0		17	60.7	11	40.7	6	35.3	11	64.7	6	60.0	6	42.9	5	38.5
	個人経営	4	7.3	3	9.7	1	4.3	3	7.5			1	10.0		3	10.7	1	3.7			2	11.8	1	10.0	1	7.1		
	公共団体	2	3.6	1	3.2	1	4.3	2	5.0						1	3.6	1	3.7	1	5.9	1	5.9					1	7.7
	その他	2	3.6	2	6.5			2	5.0								2	7.4	2	11.8					2	14.3		
	掛け持ち	1	1.8			1	4.3					1	10.0				1	3.7									1	7.7
		60	100.0	34	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	13	100.0		30	100.0	30	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	16	100.0	14	100.0
勤続年数	1年未満	23	38.3	14	41.2	9	36.0	16	40.0	2	28.6	5	38.5		8	26.7	15	50.0	10	58.8	6	33.3	2	18.2	8	50.0	7	50.0
	1～2年未満	14	23.3	6	17.6	8	32.0	9	22.5	2	28.6	3	23.1		9	30.0	5	16.7	2	11.8	5	27.8	4	36.4	1	6.3	4	28.6
	2～3年未満	8	13.3	7	20.6	1	4.0	5	12.5	2	28.6	1	7.7		5	16.7	3	10.0	2	11.8	5	27.8			2	12.5	1	7.1
	3年以上	15	25.0	7	20.6	7	28.0	10	25.0	1	14.3	4	30.8		8	26.7	7	23.3	3	17.6	2	11.1	5	45.5	5	31.3	2	14.3
		60	100.0	34	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	13	100.0		30	100.0	30	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	16	100.0	14	100.0
社会保険の加入状況	加入していた(している)	42	70.0	23	67.6	18	72.0	31	77.5	7	100.0	4	30.8		27	90.0	15	50.0	11	64.7	17	94.4	9	81.8	6	37.5	9	64.3
	加入していなかった(していない)	16	26.7	9	26.5	7	28.0	7	17.5			9	69.2		2	6.7	14	46.7	5	29.4			2	18.2	9	56.3	5	35.7
	分からない	2	3.3	2	5.9			2	5.0						1	3.3	1	3.3	1	5.9	1	5.6			1	6.3		
		60	100.0	34	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	13	100.0		30	100.0	30	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	16	100.0	14	100.0
平均的な一ヶ月の月収(手取り)	10万円未満	12	20.0	9	26.5	3	12.0	3	7.5			9	69.2		1	3.3	11	36.7	2	11.8	1	5.6			8	50.0	3	21.4
	10～12.5万円未満	9	15.0	5	14.7	4	16.0	8	20.0			1	7.7				9	30.0	8	47.1					5	31.3	4	28.6
	12.5～15.0万円未満	9	15.0	5	14.7	4	16.0	7	17.5			2	15.4		3	10.0	6	20.0	4	23.5	3	16.7			2	12.5	4	28.6
	15.0～17.5万円未満	13	21.7	5	14.7	7	28.0	7	17.5	5	71.4	1	7.7		9	30.0	4	13.3	3	17.6	4	22.2	4	36.4	1	6.3	3	21.4
	17.5～20.0万円未満	6	10.0	3	8.8	3	12.0	6	15.0						6	20.0					3	16.7	3	27.3				
	20.0～25.0万円未満	8	13.3	4	11.8	4	16.0	8	20.0						8	26.7					4	22.2	4	36.4				
	25万円以上	3	5.0	3	8.8			1	2.5	2	28.6				3	10.0					3	16.7						
		60	100.0	34	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	13	100.0		30	100.0	30	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	16	100.0	14	100.0
一日の労働時間	6時間未満	4	6.7	4	11.8							4	30.8				4	13.3							4	25.0		
	6，7時間台	6	10.0	2	5.9	4	16.0	2	5.0			4	30.8				6	20.0	2	11.8					2	12.5	4	28.6
	8時間台	17	28.3	8	23.5	8	32.0	13	32.5	3	42.9	1	7.7		5	16.7	12	40.0	11	64.7	2	11.1	2	18.2	6	37.5	6	42.9
	9時間台	8	13.3	3	8.8	5	20.0	6	15.0			2	15.4		3	10.0	5	16.7	3	17.6	1	5.6	2	18.2	2	12.5	3	21.4
	10時間台	13	21.7	7	20.6	6	24.0	11	27.5	1	14.3	1	7.7		11	36.7	2	6.7	1	5.9	6	33.3	5	45.5	1	6.3	1	7.1
	11，12時間台	7	11.7	5	14.7	2	8.0	5	12.5	1	14.3	1	7.7		6	20.0	1	3.3			4	22.2	2	18.2	1	6.3		
	13時間以上	5	8.3	5	14.7			3	7.5	2	28.6				5	16.7					5	27.8						
		57	100.0	32	100.0	24	100.0	38	100.0	7	100.0	12	100.0		29	100.0	28	100.0	16	100.0	17	100.0	11	100.0	15	100.0	13	100.0
一週間の労働時間	20時間未満	2	3.5	2	6.3							2	16.7				2	7.1							2	13.3		
	20時間台	5	8.8	4	12.5	1	4.2					5	41.7				5	17.9							4	26.7	1	7.7
	30時間台	4	7.0	1	3.1	3	12.5	3	7.9			1	8.3		1	3.4	3	10.7	2	12.5			1	9.1	1	6.7	2	15.4
	40時間台	23	40.4	12	37.5	10	41.7	17	44.7	3	42.9	3	25.0		7	24.1	16	57.1	13	81.3	4	23.5	2	18.2	8	53.3	8	61.5
	50時間台	8	14.0	1	3.1	7	29.2	6	15.8	1	14.3	1	8.3		6	20.7	2	7.1	1	6.3	1	5.9	5	45.5			2	15.4
	60時間台	4	7.0	2	6.3	2	8.3	4	10.5						4	13.8					2	11.8	2	18.2				
	70時間台	8	14.0	7	21.9	1	4.2	5	13.2	3	42.9				8	27.6					7	41.2	1	9.1				
	80時間以上	3	5.3	3	9.4			3	7.9						3	10.3					3	17.6						

単位：人，%

		全体		性別				分類						離職・在職者群＋学卒未就職者（バイト中）											
				男性		女性		離職者		在職者		学卒未就職者（バイト記載あり）	学卒未就職者（バイト記載なし）	学生	正規雇用		非正規雇		うち、離職・在職者群のみ		正規雇用			非正規雇用		
																					男性		女性		男性		女性	
		57	100.0	31	100.0	25	100.0	39	100.0	7	100.0	11	100.0		29	100.0	28	100.0	17	100.0	17	100.0	11	100.0	14	100.0	14	100.0
一ヶ月の休日日数	4日未満	6	10.5	6	19.4			3	7.7	2	28.6	1	9.1		4	13.8	2	7.1	1	5.9	4	23.5			2	14.3		
	4, 5日	12	21.1	7	22.6	5	20.0	11	28.2	1	14.3				8	27.6	4	14.3	4	23.5	5	29.4	3	27.3	2	14.3	2	14.3
	6, 7日	8	14.0	4	12.9	4	16.0	6	15.4	1	14.3	1	9.1		4	13.8	4	14.3	3	17.6	2	11.8	2	18.2	2	14.3	2	14.3
	8, 9日	20	35.1	9	29.0	10	40.0	14	35.9	2	28.6	4	36.4		10	34.5	10	35.7	6	35.3	5	29.4	4	36.4	4	28.6	6	42.9
	10日以上	11	19.3	5	16.1	6	24.0	5	12.8	1	14.3	5	45.5		3	10.3	8	28.6	3	17.6	1	5.9	2	18.2	4	28.6	4	28.6
		59	100.0	33	100.0	25	100.0	39	100.0	7	100.0	13	100.0		30	100.0	29	100.0	16	100.0	18	100.0	11	100.0	15	100.0	14	100.0
サービス残業の有無	あった（ある）	37	62.7	21	63.6	15	60.0	27	69.2	6	85.7	4	30.8		22	73.3	15	51.7	11	68.8	15	83.3	6	54.5	6	40.0	9	64.3
	なかった（ない）	22	37.3	12	36.4	10	40.0	12	30.8	1	14.3	9	69.2		8	26.7	14	48.3	5	31.3	3	16.7	5	45.5	9	60.0	5	35.7
		59	100.0	33	100.0	25	100.0	40	100.0	7	100.0	12	100.0		30	100.0	29	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	15	100.0	14	100.0
一ヶ月の残業時間	ほとんどなし	19	32.2	13	39.4	6	24.0	8	20.0	1	14.3	10	83.3		4	13.3	15	51.7	5	29.4	4	22.2			9	60.0	6	42.9
	10時間台	15	25.4	5	15.2	9	36.0	11	27.5	3	42.9	1	8.3		6	20.0	9	31.0	8	47.1	2	11.1	3	27.3	3	20.0	6	42.9
	20時間台	9	15.3	4	12.1	5	20.0	8	20.0			1	8.3		6	20.0	3	10.3	2	11.8	2	11.1	4	36.4	2	13.3	1	7.1
	30時間台	5	8.5	3	9.1	2	8.0	3	7.5	2	28.6				5	16.7					3	16.7	2	18.2				
	40時間台	1	1.7	1	3.0			1	2.5						1	3.3					1	5.6						
	50時間台	3	5.1	2	6.1	1	4.0	3	7.5						2	6.7	1	3.4	1	5.9	1	5.6	1	9.1	1	6.7		
	60時間台	2	3.4	1	3.0	1	4.0	2	5.0						1	3.3	1	3.4	1	5.9	1	5.6					1	7.1
	70時間台	5	8.5	4	12.1	1	4.0	4	10.0	1	14.3				5	16.7					4	22.2	1	9.1				
		59	100.0	34	100.0	24	100.0	40	100.0	7	100.0	12	100.0		30	100.0	29	100.0	17	100.0	18	100.0	11	100.0	16	100.0	13	100.0
職場での困ったこと・不満・疑問の有無	あった（ある）	37	62.7	22	64.7	14	58.3	26	65.0	5	71.4	6	50.0		22	73.3	15	51.7	9	52.9	13	72.2	8	72.7	9	56.3	6	46.2
	とくになし	22	37.3	12	35.3	10	41.7	14	35.0	2	28.6	6	50.0		8	26.7	14	48.3	8	47.1	5	27.8	3	27.3	7	43.8	7	53.8
		45	100.0	26	100.0	21	100.0	39	100.0	6	100.0	7	100.0		29	100.0	23	100.0	16	100.0	17	100.0	11	100.0	11	100.0	12	100.0
離職の契機（複数回答可）※全体の回答に学卒未就職者は含めていない	事業所閉鎖・会社倒産等	1	2.2			1	4.8	1	2.6								1	4.3	1	6.3							1	8.3
	解雇・人員整理	3	6.7	2	8.7	1	4.8	3	7.7			2	28.6		3	10.3	2	8.7			2	11.8	1	9.1	2	18.2		
	雇用契約期間の満了	7	15.6	5	21.7	2	9.5	7	17.9			1	14.3				8	34.8	7	43.8					6	54.5	2	16.7
	勤め先事業の先行き不安	7	15.6	6	26.1	1	4.8	6	15.4	1	16.7	2	28.6		6	20.7	3	13.0	1	6.3	6	35.3			1	9.1	2	16.7
	労働条件や処遇に不満	19	42.2	9	39.1	10	47.6	15	38.5	4	66.7	3	42.9		13	44.8	9	39.1	6	37.5	7	41.2	6	54.5	5	45.5	4	33.3
	当初に示されていた労働条件との相違	6	13.3	3	13.0	3	14.3	6	15.4			1	14.3		4	13.8	3	13.0	2	12.5	3	17.6	1	9.1	1	9.1	2	16.7
	職場の人間関係	14	31.1	6	26.1	7	33.3	13	33.3	1	16.7	1	14.3		11	37.9	4	17.4	3	18.8	6	35.3	4	36.4	1	9.1	3	25.0
	他にやりたい仕事や活動があった	9	20.0	3	13.0	5	23.8	6	15.4	3	50.0	2	28.6		7	24.1	4	17.4	2	12.5	3	17.6	3	27.3	1	9.1	3	25.0
	自分の体調不良・病気のため	6	13.3	3	13.0	2	9.5	6	15.4						6	20.7					3	17.6	2	18.2				
	その他	1	2.2	1	4.3			1	2.6			1	14.3		1	3.4	1	4.3			1	5.9			1	9.1		

単位:人, %

		全体		性別				分類									
				男性		女性		離職者		在職者		学卒未就職者(バイト記載あり)		学卒未就職者(バイト記載なし)		学生	
		103	100.0	52	100.0	51	100.0	39	100.0	10	100.0	12	100.0	20	100.0	22	100.0
ハローワークに登録した時期	17年より前	18	17.5	11	21.2	7	13.7	6	15.4	1	10.0	4	33.3	6	30.0	1	4.5
	17年1～3月	16	15.5	8	15.4	8	15.7	7	17.9	1	10.0			6	30.0	2	9.1
	17年4～6月	27	26.2	18	34.6	9	17.6	10	25.6	1	10.0	5	41.7	7	35.0	4	18.2
	17年7月	17	16.5	5	9.6	12	23.5	10	25.6	1	10.0	2	16.7			4	18.2
	17年8月	25	24.3	10	19.2	15	29.4	6	15.4	6	60.0	1	8.3	1	5.0	11	50.0
		87	100.0	44	100.0	43	100.0	31	100.0	7	100.0	9	100.0	19	100.0	21	100.0
現在までの応募件数	0件	28	32.2	12	27.3	16	37.2	10	32.3	5	71.4	1	11.1	4	21.1	8	38.1
	1～4件	18	20.7	12	27.3	6	14.0	10	32.3	2	28.6	1	11.1	3	15.8	2	9.5
	5～9件	15	17.2	8	18.2	7	16.3	6	19.4			2	22.2	3	15.8	4	19.0
	10～19件	9	10.3	7	15.9	2	4.7	2	6.5			2	22.2	3	15.8	2	9.5
	20～29件	11	12.6	4	9.1	7	16.3	3	9.7			1	11.1	5	26.3	2	9.5
	30件以上	6	6.9	1	2.3	5	11.6					2	22.2	1	5.3	3	14.3
		87	100.0	44	100.0	43	100.0	31	100.0	7	100.0	9	100.0	19	100.0	21	100.0
同、面接件数	0件	37	42.5	17	38.6	20	46.5	15	48.4	5	71.4	1	11.1	8	42.1	8	38.1
	1, 2件	12	13.8	6	13.6	6	14.0	5	16.1	1	14.3	2	22.2	2	10.5	2	9.5
	3, 4件	13	14.9	8	18.2	5	11.6	5	16.1	1	14.3	2	22.2	1	5.3	4	19.0
	5～9件	12	13.8	7	15.9	5	11.6	4	12.9			1	11.1	3	15.8	4	19.0
	10～19件	10	11.5	6	13.6	4	9.3	2	6.5			3	33.3	4	21.1	1	4.8
	20件以上	3	3.4			3	7.0							1	5.3	2	9.5
		102	100.0	51	100.0	51	100.0	39	100.0	10	100.0	11	100.0	18	100.0	24	100.0
希望する雇用形態(以下、求職に関する回答)	正社員	99	97.1	49	96.1	50	98.0	37	94.9	10	100.0	11	100.0	17	94.4	24	100.0
	正社員以外	3	2.9	2	3.9	1	2.0	2	5.1					1	5.6		
		99	100.0	49	100.0	50	100.0	38	100.0	10	100.0	11	100.0	17	100.0	23	100.0
希望手取り額	15, 16万円	43	43.4	17	34.7	26	52.0	18	47.4	3	30.0	5	45.5	7	41.2	10	43.5
	17, 18万円	36	36.4	19	38.8	17	34.0	13	34.2	4	40.0	4	36.4	8	47.1	7	30.4
	19, 20万円	13	13.1	7	14.3	6	12.0	6	15.8	2	20.0	2	18.2	2	11.8	1	4.3
	21, 22万円	2	2.0	1	2.0	1	2.0									2	8.7
	23, 24万円	1	1.0	1	2.0											1	4.3
	25万円以上	4	4.0	4	8.2			1	2.6	1	10.0					2	8.7
		106	100.0	53	100.0	53	100.0	40	100.0	10	100.0	12	100.0	20	100.0	24	100.0
求人条件でとくに重視しているポイント(2つ以内※)	正社員であること	54	50.9	30	56.6	24	45.3	24	60.0	6	60.0	6	50.0	7	35.0	11	45.8
	収入がよいこと	18	17.0	9	17.0	9	17.0	9	22.5	1	10.0	2	16.7			6	25.0
	各種手当があること	7	6.6	3	5.7	4	7.5	6	15.0					1	5.0		
	残業の少ないこと	4	3.8	1	1.9	3	5.7	2	5.0							2	8.3
	雇用・医療・年金など各種の社会保険に加入している	45	42.5	16	30.2	29	54.7	18	45.0	6	60.0	5	41.7	10	50.0	6	25.0
	会社の場所	29	27.4	16	30.2	13	24.5	8	20.0	2	20.0	4	33.3	5	25.0	10	41.7
	会社の知名度	1	0.9	1	1.9											1	4.2
	仕事の内容	53	50.0	27	50.9	26	49.1	15	37.5	5	50.0	9	75.0	13	65.0	11	45.8
	その他	5	4.7	5	9.4			2	5.0					1	5.0	2	8.3
		106	100.0	53	100.0	53	100.0	40	100.0	10	100.0	12	100.0	20	100.0	24	100.0
現在の求職活動の方法(複数回答可)	ハローワークに登録	103	97.2	52	98.1	51	96.2	39	97.5	10	100.0	12	100.0	20	100.0	22	91.7
	ジョブ・カフェに登録	58	54.7	27	50.9	31	58.5	19	47.5	5	50.0	7	58.3	14	70.0	13	54.2
	家族・親戚や友人などを頼	8	7.5	2	3.8	6	11.3	1	2.5	1	10.0			2	10.0	4	16.7
	求人誌や新聞の求人欄をみる	61	57.5	30	56.6	31	58.5	21	52.5	5	50.0	11	91.7	14	70.0	10	41.7
	資格の取得を目指して教育研修受講中	12	11.3	4	7.5	8	15.1	8	20.0					2	10.0	2	8.3
	その他	11	10.4	4	7.5	7	13.2	1	2.5	1	10.0	1	8.3			8	33.3

単位：人，%

		全体		性別				分類									
				男性		女性		離職者		在職者		学卒未就職者（バイト記載あり）		学卒未就職者（バイト記載なし）		学生	
		105	100.0	53	100.0	52	100.0	39	100.0	10	100.0	12	100.0	20	100.0	24	100.0
求職活動に割いている時間	非常に時間を割いている	13	12.4	10	18.9	3	5.8	3	7.7			2	16.7	6	30.0	2	8.3
	まあ時間を割いている	50	47.6	27	50.9	23	44.2	20	51.3	1	10.0	10	83.3	10	50.0	9	37.5
	まだあまり時間を割いていない	42	40.0	16	30.2	26	50.0	16	41.0	9	90.0			4	20.0	13	54.2
		105	100.0	53	100.0	52	100.0	39	100.0	10	100.0	12	100.0	20	100.0	24	100.0
求職活動中の現在の心境	非常に焦りを感じている	36	34.3	24	45.3	12	23.1	16	41.0	1	10.0	5	41.7	11	55.0	3	12.5
	多少焦りを感じている	51	48.6	18	34.0	33	63.5	15	38.5	5	50.0	7	58.3	9	45.0	15	62.5
	あまり焦ってはいない	18	17.1	11	20.8	7	13.5	8	20.5	4	40.0					6	25.0
		103	100.0	53	100.0	50	100.0	38	100.0	10	100.0	12	100.0	19	100.0	24	100.0
就職（再就職）の見通し	非常に難しい	35	34.0	18	34.0	17	34.0	13	34.2	1	10.0	5	41.7	9	47.4	7	29.2
	まあ難しい	32	31.1	15	28.3	17	34.0	13	34.2	3	30.0	3	25.0	6	31.6	7	29.2
	とくに難しくない	8	7.8	4	7.5	4	8.0	2	5.3	1	10.0	1	8.3			4	16.7
	わからない	28	27.2	16	30.2	12	24.0	10	26.3	5	50.0	3	25.0	4	21.1	6	25.0
		101	100.0	52	100.0	49	100.0	38	100.0	8	100.0	11	100.0	20	100.0	24	100.0
求職活動中のプレッシャーや気持ちのまいることの有無	ある	67	66.3	32	61.5	35	71.4	24	63.2	3	37.5	9	81.8	15	75.0	16	66.7
	とくにない	34	33.7	20	38.5	14	28.6	14	36.8	5	62.5	2	18.2	5	25.0	8	33.3
		102	100.0	51	100.0	51	100.0	39	100.0	9	100.0	12	100.0	20	100.0	22	100.0
求人条件での不満や就職に際しての障害の有無	正社員での募集が少ない	37	36.3	16	31.4	21	41.2	14	35.9	6	66.7	4	33.3	4	20.0	9	40.9
	賃金が低い	33	32.4	12	23.5	21	41.2	13	33.3	5	55.6	2	16.7	6	30.0	7	31.8
	労働時間が長い	7	6.9	2	3.9	5	9.8	3	7.7			1	8.3			3	13.6
	仕事の時間帯があわない	5	4.9	1	2.0	4	7.8	3	7.7	1	11.1			1	5.0		
	仕事がきつそう	3	2.9	2	3.9	1	2.0	2	5.1			1	8.3				
	社会保険に加入している募集が少ない	9	8.8	5	9.8	4	7.8	5	12.8	3	33.3	1	8.3				
	年齢制限	17	16.7	6	11.8	11	21.6	4	10.3	4	44.4			3	15.0	6	27.3
	経験が要求されている	63	61.8	34	66.7	29	56.9	25	64.1	4	44.4	10	83.3	16	80.0	8	36.4
	高度な技術や資格が要求されている	25	24.5	15	29.4	10	19.6	12	30.8			5	41.7	6	30.0	2	9.1
	その他	10	9.8	7	13.7	3	5.9	3	7.7			2	16.7	1	5.0	4	18.2
		103	100.0	53	100.0	50	100.0	37	100.0	11	100.0	12	100.0	19	100.0	24	100.0
資格の有無	持っている	75	72.8	35	66.0	40	80.0	26	70.3	9	81.8	8	66.7	13	68.4	19	79.2
	とくにない	28	27.2	18	34.0	10	20.0	11	29.7	2	18.2	4	33.3	6	31.6	5	20.8
		103	100.0	50	100.0	53	100.0	39	100.0	11	100.0	12	100.0	17	100.0	24	100.0
世帯での位置	世帯主	31	30.1	17	34.0	14	26.4	15	38.5	6	54.5	2	16.7	4	23.5	4	16.7
	世帯員	72	69.9	33	66.0	39	73.6	24	61.5	5	45.5	10	83.3	13	76.5	20	83.3
		104	100.0	51	100.0	53	100.0	40	100.0	11	100.0	12	100.0	17	100.0	24	100.0
主たる家計支持者	親	75	72.1	36	70.6	39	73.6	25	62.5	5	45.5	10	83.3	14	82.4	21	87.5
	あなた自身	25	24.0	14	27.5	11	20.8	13	32.5	6	54.5	2	16.7	2	11.8	2	8.3
	その他	4	3.8	1	2.0	3	5.7	2	5.0					1	5.9	1	4.2
		104	100.0	51	100.0	53	100.0	40	100.0	11	100.0	12	100.0	17	100.0	24	100.0
現在の住まいの種類	親の持ち家・ﾏﾝｼｮﾝ	58	55.8	27	52.9	31	58.5	23	57.5	5	45.5	6	50.0	10	58.8	14	58.3
	あなた自身の持ち家	1	1.0	1	2.0					1	9.1						
	民間借家・アパート	44	42.3	22	43.1	22	41.5	16	40.0	5	45.5	6	50.0	7	41.2	10	41.7
	公営借家	1	1.0	1	2.0			1	2.5								
		104	100.0	51	100.0	53	100.0	40	100.0	11	100.0	12	100.0	17	100.0	24	100.0
現在の暮らし向き	非常に苦しい	13	12.5	8	15.7	5	9.4	7	17.5					5	29.4	1	4.2
	多少苦しい	36	34.6	20	39.2	16	30.2	13	32.5	3	27.3	5	41.7	8	47.1	7	29.2
	楽である	26	25.0	13	25.5	13	24.5	6	15.0	5	45.5	2	16.7	2	11.8	11	45.8
	何ともいえない	29	27.9	10	19.6	19	35.8	14	35.0	3	27.3	5	41.7	2	11.8	5	20.8
	DI（楽マイナス苦しい）		−22.1		−29.4		−15.1		−35.0		18.2		−25.0		−64.7		12.5

資料2　自由記述

※回答は、正規雇用、非正規雇用、雇用形態不明（以上は離職・在職者群)、学卒未就職者、学生で分けて掲載した。

自由記述①　仕事での困ったことや不満、疑問など

■正規雇用

【13】雇用契約に問題あり、また、経営方針に不満を感じたため。

【19】給料の低さ。

【31】会社の社員に対する扱い。

【32】社員のほぼ全員が喫煙者で社内は曇っており、また、出先でのミーティングは必ず喫煙室で行われるので非喫煙者には耐え難い職場でした。

【34】仕事の内容と賃金のつり合いが取れていなかった。

【39】敬語（サービス業なので特に客に対して)。

【40】経営方針。

【81】自分の成績。

【85】介護度が高くなるが（高い要介護者の多い職場だが一調査者)、人員的余裕がなかった。福祉職に対して、思っていたのと現実の差が大きかった。

■非正規雇用

【8】業績不振による人員削減で労働時間が減って給料が減った。

【11】年代が40,50代のおばさん世代ばかりだったから気をつかった。

【14】1日中パソコンとにらめっこだったので目が疲れた。外にでて新鮮な空気が吸えない部屋にこもりっぱなしなので。

【21】連絡事項等の通達の遅さ、会社内の連携の悪さ、目上を敬うことを一切しないところ。

【55】求人表の内容と大きく異なっていた。

【63】電話を受ける仕事だが、電話で話しをしている時間より、待っている時間が多く、待っている間は他の業務をすることが禁止されているので、ヒマな時間が多すぎる。

■学卒未就職者

【26】変な客が来る(ワガママ・文句をつける等)。

【37】イベント主催者からの要望が多く、給与が仕事内容に見合わない。

【62】中学生を相手にしているため少し神経を使います。

【76】下の⑥や⑦（労働条件との相違、職場の人間関係一調査者)、また給与に関して。

【109】長く働いているのに時間数が短縮され月収も減少していく傾向が強くなっている。アルバイトなので社会保険に加入されていない。

自由記述②　離職の契機

■正規雇用

【4】年俸制に変わり、また販売で4年間勤めていたが、違う職種に変更されたため。その年俸制が社員に対してやさしくないものだったため。

【23】元々公務員を志望している為、在職しながらも試験を受ける予定。

【25】会社を辞め、専門学校に進学。

【32】上役ばかりが金回りがいい会社の駒になるのが嫌だった。

【34】民事再生による人員整理のため。

【40】他社より引き抜きがあり退職、しかし、その会社の経営方針と意見が合わず、辞退。現在に至る。

【60】栄養士の仕事を約2年間してきたが、違う仕事をしてみたくなったから。

【81】会社の再編成。

【92】働いているうちに、たくさんの仕事があることに気づき、他にやりたいことが見つかった。

■非正規雇用

【8】今まではバイトでも生活できたが、国から企業にバイト時間の制限（保険未加入者に対して）などで時間が削られ、業績不振のためにバイトの時間を削って、正社員の残業を増やした。今まではむしろ逆だった。

【18】今はまだ考えていない。自分に合った仕事がないか見ているところ。

■学卒未就職者

【26】前々職では⑤労働力（仕事一調査者）と賃金のバランスが悪かった。前職では半年ずつの契約更新だったので②（「解雇・人員整理」一調査者）をほのめかされて③（「雇用契約期間の満了」一調査者）として退職（次の職を探す時間はもらった)。ちなみに（直接の一調査者）原因は上に書いたような変な客に対応できなかったため。

【50】現在登録のアルバイトのため、不安定な収入であるため一日も早く就職先を見つけたいです。

【56】このままの生活でいいのかどうか。

【77】オーストラリア留学。

【96】いつまでもアルバイト(フリーター)という身分は社会的(世間体)に見ても良くないのと、将来的に今のままでは不安。

自由記述③　求職活動でのプレッシャーなど

■正規雇用

【10】年齢・性別で職種が限られる。

【13】収入源がない分生活に支障をきたす。

【19】親の声が厳しい。

【22】少ない求人に対して多くの求職者がいて幅が狭い。

【57】年齢が、もう若くないし、辞めた仕事が仕事内容以外は良いところだったので、それ以上のところを探してしまうが、実際にはない。

【81】仕事が決まるかどうか。

【102】面接がうまくいかない。

■非正規雇用

【6】早く仕事に就かないと金銭面が・・・

【11】仕事内容を見たときに「自分にできるのかな…無理っぽいかも」みたいな。

【14】今後の不安。

【21】仕事をしてない時間が長くなればなる程労働意欲が下がるし緊張感を持続するのが大変。

【63】会社倒産や、プライベートの事情で転職回数が多いのですが、「転職が多い＝飽きっぽい」ととられがちで、その事情を説明するのに自分の生活まで細かく話さなければならなく、その度にストレスになる。

【78】家族からのプレッシャーを感じる。

【80】引っ越してきたばかりで、貯金が底をつきはじめている。バイトといっても、年齢的にも厳しいので、早く仕事を見つけなければ、と気持ちばかりがあせる。

■雇用形態不明（離職・在職者群）

【20】現在美容師の仕事をしているので他の職に就いたことがないので不安でたまりません。

【43】働いていて休みが少なく時間があまりとれないこと。

■学卒未就職者

【9】周りの友人達がみんな働いていること。

【37】家族から就職をせかされること。

【38】大学・高校の同期が再就職をしている話を聞いた時。

【52】親からの生活費の請求など。

【53】周りの人が職に就いていく時。

【56】中卒・高校中退で本当に仕事が見つかるかどうかが不安。

【62】新卒の頃よりも、さらに何かスキルがないと厳しいと感じる。ただスキルを身につけるにも、時間とお金がかかること。

【68】既卒未経験なので、時と共に状況が悪くなる。少しでも早く職につきたいと考えている。

【96】若者で、学生中に内定をもらえてない手前、中途採用での自分の売りにするもの(キャリア等)がない事。

【99】生活していけなくなる(金銭面で)。

【100】１ヶ月の生活費にさえ頭を悩ます。友人・知人との比較で自己嫌悪。

【109】面接を受けても採用していただけない。

■学生

【16】ちゃんと面接できたりするだろうか。

【27】周りがどんどん決まっていくため取り残された感がある。

【28】公務員試験対策と就職活動の両立。

【47】同じ会社を受けた知人が内定した時。

【58】学校で内定者がどんどん増えていくので、早く決めなきゃというプレッシャー。

【65】希望する人も多いのでなかなか多くの企業をさがすことができないのと、周りの人達もあせりを感じているので自分もあせってくる。

【66】親には反対されて、すごく説得して専門学校に行かせてもらったからには、正社員である就職を卒業までに決めなくてはって思います。

【95】履歴書を書くだけでも苦労する。（自己PR文や、志望動機など）面接が不安。

【104】○△□（学校名ー調査者）専門学校なんか行かなければよかった。行きたくなかった。担任も悪い。いつも暗い顔。働くのに役に立たない事ばかりで全て。学費はもったいなくなっている。

【107】面接が苦手。

自由記述④　求職活動での障害・困難や、自分の希望とのギャップなど

■正規雇用

【2】高卒やキャリアなしは辛い。

【4】全国を転勤してきたよりも低い。全国よりも低賃金。

【19】異業種（からの転職ー調査者）は書類で落とされる。

【40】現在もアプローチがある企業からの条件提示とのギャップの大きさ。自分の思考に合った高条件の企業を見つけるのは難しい。

【57】就職のために取得した資格が、あまり役に立たない。または、それにあった仕事が見つからない。

■非正規雇用

【6】求人票をもう少しわかりやすくしてほしい。残業の記入などくわしく。

【8】大学は経済学部で何も資格はない

し、経験もない。やりたい仕事は経験を必要とするものが多い。

【11】やる気はあるけれど行動にうつすのがだるい。

【17】途中での採用は、経験、技術が求められていること。

【21】未経験だとかなり不利な職種が沢山あるのが障害。

【63】20代の頃は書類審査が通らないということもなく、逆に、2社同時に内定を頂いたりと、お断りするのに苦労したが、30代になると、特に女性に対してはきびしくなる。さらに、未経験可の会社は、20代前半の人を採りたがるので、新しい仕事にチャレンジする事が難しい。

【80】やる気はあるが、「経験者優遇」の企業が多い。「指導します」というのがあっても「うちで学んで他に転職するんじゃないか」と思われるのではないかという不安もあって、もう一歩踏み出せないときもある。

■雇用形態不明（離職・在職者群）

【73】現在働いているので、次就職する為の就職活動が制限されているし、今働いている職場がなかなか辞めさせてくれない。

【87】現在、在職しているので、休みが日曜日しかなく、ハローワーク等をあまり使えない。

■学卒未就職者

【9】新卒に厳しく、経験がなければ面接に進めない。

【26】中途採用での情報やセミナーが少ない。

【30】早くから将来についてしっかり考えを持つべきだったと思う。

【52】女性の雇用が実際には少ないと思う。

【68】資格・経験の不足。

【70】大学など新卒のときは、まだ何となく活動しやすいが1年以上経て既卒となると、いろいろとその間何をしていたのか面接で聞かれるので、努力をして試験や資格を取れなかった時期など、マイナスイメージとなりやすくて、何て説明したらよいかと困惑。

【76】新卒、理系以外は、大卒は意味がほとんどない。専門の方が有利。

【88】自分の希望の上では、色々と社会保険、年金、雇用など、備わっていた会社に入りたいが、そうもいかない現状のギャップがあります。

【99】求人情報と、実際に面接で聞く話がかけ離れている。

【100】応募から面接日までの時間がかかる。

【110】もともとクリエイティブ・マスコミ系志望だが事情により自分が札幌圏での採用情報を探しているが首都圏に比べ圧倒的に少ない。親とも意見が対立している。現在は就職を優先するため一般事務職を中心に仕事を探している。

■学生

【3】年齢が上がるほどに経験や技術を求めている点。

【12】勤務時間の不規則さに身体が慣れていくのが不安です。夜勤、早番等あるため、不規則な仕事になりそうなので。

【27】希望勤務地と希望条件がなかなか合わない。

【47】新卒の求人が少ない。

【58】仕方ないとは思うが、専門学生の求人が少ないこと。以前札幌に住んでいたが、今は親の転勤で関東にいるから札幌勤務を希望で働いても、札幌在住の人にはかなわないのかなと思う時がある。そこが障害であり、困難。

【66】旅行会社で、正社員は大卒以上で、契約社員とバイトは専門・短大卒以上可というのが厳しいです。

【69】技術職だと四大や専門・高専に比べると短大は少し不利かもしれない。大企業ほど短大生が採用されにくいのが少し不満。そのかわり、大企業は学推の募集ならくる。でも採用人数はかなり少なく若干名となっていても誰一人採用されなかったということもあったためか現実はかなり厳しい。

【72】事務職では、四大より短大のほうが、選択肢が多い。

【95】医療事務の求人は非常に少ないと思う。求人があってもやはりパートでの採用だったり、経験者だけを採用したりするので、採用されるのに難しいかもしれない。

【98】なりたいものになるのは難しかった。

【104】学校の生徒、担任から、あなたはバカなひとだ、頭のおかしすぎる人だと毎日言われる。担任は僕に対して、建築士でないから営業しかできるわけないじゃないかと言う。だけどヤングハローワーク札幌の職員は僕を助けてくれている。

自由記述⑤　資格の有無と求職活動で役立っているかどうか

■正規雇用

【2】パソコン（エクセル・ワード）。

【4】MOS。

【5】古物商、情報処理。現時点では役に立っている。

【10】MOT、MOS、初級シスアド。あまり役に立ってない。

【22】免許以外は会社によって役立たないこともある。

【23】情報処理士、宅地建物取扱主任者。

【25】調理師(予定)、ワープロ、パソコン、簿記等。事務系の資格は持っていても実際事務の仕事に就いてないと意味がない。

【32】自動車免許、ボイラ2級、ガス溶接、危険物乙種四類。役にたっていない。

【33】簿記3級。

【39】英語系（TOEIC、英検)。資格以上に経験が必要（その資格での)。

【40】教員資格。特に役立たせる気はない。

【41】臨床検査技師。

【57】パソコン技能検定二種試験1級、Microsoft Office Specialist (Excel)。役に立ちません。

【60】栄養士、調理師。役に立ってない。

【75】漢検準2級、ワープロ検定3級、自動車免許。特に役に立っていないと思う。

【92】簿記2級、秘書技能検定準1級。秘書検定では面接時のマナーを学ぶことができた。

【102】初級シスアド。

■非正規雇用

【6】高校教諭、簿記、建設業経理事務士、シスアド。

【14】文部科学省認定ビジネス能力検定級。

【17】マイクロオフィススペシャリスト、エクセル、ワード。

【18】簿記、電卓、そろばん、ワープロ、硬筆書写、商業実務。

【21】硬筆書写技能、日本漢字検定、キネシオテーピングトレーナー資格。特に役立ってない。

【24】教員免許(理科)、自動車免許。あまり役立たないです。

【62】みんな持っている資格なのでオリジナリティがあるとまでは言えないです。

【63】英検2級。簡単な電話の取りつぎはできるが、その程度ではあまり役に立たない。資格としては持っていないが初級シスアド程度の知識有り。パソコンの仕組みから理解しているので、ほとんどのソフトに対応できるので、自信をもってアピールできる（実務ではとても役に立っています)。

【64】ワープロ用ソフトの文書処理技能の検定の資格職務経歴や添え状、履歴書の作成オリジナルデザインで作れます。

【71】役に立っていませんが、履歴書に書ききれません。商業高校で取得した資格（簿記、珠算、ワープロ、情報処理、秘書など…)。

【74】簿記、エクセル・ワープロ、ワード、電卓、ほか。事務は簿記が必要な所もあるので役に立ちます。

【80】エクセル2級、ワープロ3級、販売士3級、FP2級・一部合格（1月に受験予定)。エクセル2級でどうにかなると思っていたが、全く役に立たずにいる。

■雇用形態不明（離職・在職者群)

【20】美容師免許、ヘルパー1級、色彩検定、ワープロ検定、簿記。

【43】英検2級、プレゼンテーション実務士、図書館司書、Microsoft Word・Excel。

【73】医療事務関係三つ。漢検2級、英検3級、秘書検定、ビジネス検定、簿記検（全経)、3級ワード・エクセル初段、デザイン検定1級、ホームヘルパー2級。

【84】介護福祉士、社会福祉士、SAJスキー検定1級、全情協パソコン検定2級、全情協文書処置検定1級。

【87】国家2級自動車整備士(ガソリン・ディーゼル)。

【108】教員免許二種。役立っていないと思う。

■学卒未就職者

【9】社会福祉士。

【30】英語の資格やワード･エクセルをある程度できるという資格は持っているが特に役に立っていない。

【37】エクセル、ワード3級。3級では資格としては弱いので2級以上でないとあまり役に立たない。

【38】運転免許、エクセル・ワード3級。

【45】英検2級。

【52】パソコン技能検定資格。成果は見られない。

【53】簿記、シスアド。役に立っていない。

【68】Mous Excel 2003、普免。免許は役立っているが、Mousは一般なので微妙。

【70】医療事務。経験はまだないが、一応勉強してきているということで、雇ってくれそう（自分次第で)。

【77】英検、TOEIC、スキューバーダイビング。

【79】普通免許一種、大型特殊免許、車両系建設機械免許。

【86】ビジネス検定3級、マルチメディア検定3級。役に立っている。

【88】まずはビジネス実務検定3級など。他に運転免許を取得しましたが、必要となる資格をこれから取り直すことが大事だと思います。

【93】普通自動車一種免許。全く役に立っていない。

【101】学芸員・社会教育主事・普通自動車免許・図書館司書など。役に立たないです。

【109】MOUS（マイクロソフト検定）。パソコンのスキルがあることを認めてもらっている。

【111】Word3級を持っているが希望職種と無関係のため役立っていない。

■学生

【3】英検2級、秘書検2級、小型船舶2級、フォークリフト免許、普通一種、自動二輪、TEP TEST3級（大卒程度）。その他の初級資格20～30程度保有。今までの経験からいえば資格をたくさん持っていると、面接でウケがいい。しかしそれだけで受かるとも思えませんといった感じである。

【12】普通自動車免許。卒業時取得予定は、介護福祉士、社会福祉士主事（任用）、ガイドヘルパー、レクリエーションインストラクター。

【16】英検、漢検、エクセル。

【27】英検、漢検、普通免許。役に立たない。

【29】英検2級、色彩検定2級、普通自動車1種。特に役立っている気はしません。

【44】ビジネスコンピューティング3級。役に立っているかどうかまだ分からない。エクセルの基本操作ができれば、誰でも取れる難易度の高くない試験です。

【46】普通自動車一種免許、役に立っていない。

【47】ヘルパー2級。すぐにでも職に就ける。

【54】はり・灸・マッサージ師。役に立つかどうかわかりませんが、病院に就職するならば有利になると思う。

【58】日商簿記2級、ワープロ検定2級、エクセル1級、書道初段、ホームヘルパー3級、漢検1級、Word2003、文書デザイン検定1級、電卓3級、全産簿記2級。日商簿記2級、ワープロ検定2級、エクセル1級は役立つと思う(事務職を希望しているため)。

【65】洋裁技術検定とパターンメーキング技術検定をもっているので、技術を要求される場合は多少有利だとは思います。

【69】秘書検、英検、漢検、ワープロ検定など。事務系が志望なので役に立つと思っている。仕事内容にあった資格を持つことが大事だと思う。

【72】TOEICや英検。語学を生かす職種は限られてしまっているように感じる。

【83】英検2級、自動車免許（MT）。営業で車を使う企業を受ける時は運転免許（MT）を必須条件としているので助かる。

【90】英検2級、TOEIC850、財務会計主任者試験2級、数学検定2級。役に立つかはわからない。

【95】医療事務管理士など。実際にはあまり役に立たない。経験や能力が要求されると思う。

【97】これから国家試験を受けて取得する予定。

【98】英検、秘書検、サービス系、医療事務系、等。まあまあ役に立っていると思います。

【107】エクセル。

自由記述⑥　若者の就職難に対する一般的見解への意見や、関係機関への希望など

■正規雇用

【4】若者に対しては夢や希望がありすぎる。また、企業は社員よりもパートに重きを置きすぎ。

【5】それもあるとは思うけど、仕事をすることをわかっていない人が多いと思う。

【10】今の学生は学校にパソコンがあり、手厚いいろいろな施設がここ2～3年急増して恵まれている。民間企業を辞めるひとはみんな公務員になると言っている。やはり官の厚遇が民を押しているからだと思う。

【13】周囲の意見も多少あるが将来の事を考えた時、やはり仕事をしなければ生活できない。雇用形態の不備（サービス残業、厚生年金の未加入労働）実際の社会保険加入制度の目を切り抜けての会社運営。

【19】努力不足とは思わない。むしろ狭い受け口で企業側が人を選んでいるために若者の就職が厳しいと感じる。

【22】受け入れられる側と受け入れる側両方に問題があり、必ずしも就職意欲や努力不足だけで厳しいことはいえないが少しは関係している。

【23】アルバイトを探すような感覚で就職活動をしている人が多いと思う反面、景気が悪くて企業側も正社員を募集するところが少なくなってきていて悪循環だと思う。

【34】就職意欲の低さも確かに問題だと思うが、民間企業にも問題があって、例えば、会社側で人材を見抜く力というものも低く、こちらが考えているものよりは、ある程度適当なところがあったりする場合があるものなので、自分のアピールポイントをしっかり持つことが大切だと思います。

【36】若者が希望する業種・職種の求人自体が少ないと思う。

【39】就職に活かせる授業、セミナーをより多く取り入れてほしい（特に学校で）。勉強以上に実践が必要。

【40】職種、業界、給与にこだわらなければ、就職は可能だと感じている。特に学歴等も問わない募集も行われているので、各個人の自己分析による正しい求職活動を行えばいいと思う。

【57】現在、求人をしている企業のほとんどが、何らかの実務経験や、資格を持

った、即戦力になる人を採ろうとするので、若い人に経験といっても、あるわけがないから、企業自体が社員を育てるようなシステムが欲しい。また大学等でも積極的に資格等を取らせるべきだと思う。

【59】 他県の就職の情報が、少ないと思います。北海道の人が他の場所で職を探している時に、もっとサポートしてほしいです。

【60】会社がしっかりしてないと思う。社会保険等には加入してほしい。

【81】実務経験が求められる事が多く、それらの会社ではなかなか面接までいけないことがある。

■非正規雇用

【8】就職意欲低いというより失敗するのが恐いとか競争に勝てないのでは？という不安なのではないでしょうか。それは学校生活の中でそういう経験が得られないこと、学校という世界も何らかに守られたバーチャルな世界だから急に現実な世界にとってもいけないのがあたりまえな気がします。わたしは今は失敗してはだめだというように思っていました。それから楽に稼げるものではない。稼いでいる人はとても努力しているというのを教えたほうがよいと思う。お金があればヒマがない。ヒマがあればお金がない。

【14】高校の教育プログラムの一つに企業研修を入れたらニートやフリーターが少し減ると思う。

【17】どのような職業があってそれにつくためには、どうしなければならないかというのを学校でよく説明したらよいと思う。

【21】大卒で漢字が読めなかったり、電話応対でのマナーや常識的な事を出来ない人が増えすぎているのが就職を困難にしている様にも思えます。4 年も学校に行くならその位は当たり前に出来てほしいと思います。

【63】あまり若年とは言い難い年齢なので、アンケートのお役に立てたでしょうか？30 代になると、「ヤル気」だけでは通用しません。求められるのは特別な経験やスキルです。(これは私の求職活動で感じた事ですが・・)、20 代前半でいろいろな仕事にチャレンジし、自分に合った仕事を見つけ、スキルを磨いておくと、後々困らないと思います。学校機関もインターン制度など導入し、学生のうちから仕事に関心を持てるように取り組んではいかがでしょう？

【64】支援をする機関（官民問わず）が充実していると思いました。利用を活発にすることは、就職への第一歩だと感じました。就職に対する本当の意欲の違いが、服装、行動、等に顕著に出てると思いました。セミナーを受けるだけでは意味は無く、実行することが大切だと思いました。活動している人達にも差があります。

【71】現在、就職活動をはじめたばかりなので正社員で探していますが、やりたい仕事につきたいので、アルバイトでもよいと思っています。ハローワークの方は、よくしてくれていると思いますが、企業側も若者より実務経験者（即戦力）を求めた方が経費節減になるし、不景気なことが厳しい理由だと思います。

【80】働く意欲はあっても、企業側は「もういらない」というスタンスをとっているように感じる。また「経験者優遇のみ」というにただでさえ、狭い門をさらに狭くして入れないようにしているとも思える。企業側も積極的に「育てる」ということに力をいれればよいのだが、今の状況では難しいと言わざるを得ないだろう。ハローワークは頑張っているだろうが、国や自治体は全く問題にさえしていないとも思える。

■履用形態不明（離職・在職者群）

【20】社保がついている職がもっと増えてほしい。美容業界はほとんどついていなかったのでかなりつらいです。

【43】就職は「縁」があるところに決まるものなので、いくら努力をして闇雲に受けても決まらないところには決まらないけど、努力をしなきゃ前には進めないのも事実。でも、人と比べて焦る必要はないので、周りの言うことにいちいち振り回される必要はなし。それに会社に入ってみないとわからないので、どんどんチャレンジするべしだと思います。

【73】若かったり経験が少ないからといって、低い評価を受ける場合もある。会社を良くしていく為なら、若い人を育てる必要もあるので、雇う側も考えを改めるべきだと思うこともある。

【84】自分の適職がわからなかったのが大きい。小中高のころから、国語・算数などの勉強だけでなく、現実の社会に触れる機会が持てれば良かった。

【108】企業側が新入社員に対して仕事面で期待をもっていないように感じる。自分の甘えでしか無いが、やってみたいと思える職があまり無い。自分がどう行動をしてよいかわからない。

■学卒未就職者

【9】これからさらに高齢化が進む中、介護に携わる職種が身体的な重労働の割りに低いように思える。誰もが生きていれば高齢者になるのだから、その高齢者を支える仕事がもっと認められてもいいと思う。

【24】新卒が一般企業では求められているのが多いので既卒者の求人がもっとあればと思う。国立大学(独立行政法人になってからはわからないが)は就職に対して消極的過ぎると思う。

【26】新卒者の情報はいいが中途採用は厳しい。中途採用での企業の面接官が集まるセミナーを新聞でのせてほしい。

【30】早い時期から将来どんなことをしていきたいか考えたりする機会があればいいんじゃないかと思う。中学校･高校などの場でも仕事について話し合う場があれば…。

【37】実際に就職している人は熱心に就職活動をしている人が多数であるので、若者の意欲が低いことは考えられる。学

校側には、学生の働く意欲を高めさせる努力が必要であると考えられる。

【42】就職難な時代なので、何かの仕事に就くために力を入れるより、たくさんの会社を受けて広く浅い知識で受けたり、とにかくたくさん受けてみようという人も多いので、その辺りが意欲不足にとられるのではないかと思う。職を選ぶときになって、はじめて知る仕事が多く、イメージがわからないので、義務教育のうちに職場の見学や仕事を学ぶ時間を設けたりしてもらえると、もっと将来について考える人が増えるのでは？と思います。

【49】求人票の応募資格を詳細にしてほしい。採用する気もない所に出かけていくのは交通費の無駄。

【52】首都圏に比べて北海道の就職状況は非常に悪いと思う。仕事が発生しないのもわかるが、新事業など何か画期的な打開策が出てくる事を期待する。

【53】現在、3ヶ月や6ヶ月の職業訓練が多いが、1日の訓練時間が長くてもよいので、1ヶ月ほどで終わる実務に直結するスキルを磨く訓練をしてみたい。

【62】若者の就職が厳しい理由は、上に書かれているとうりだと思う。でも、経験ばかり問われても八方ふさがりになってしまうし、もう少し未経験でも募集してほしい。それなら少し勇気が増します。ハローワークに関しては、土曜日もやっていいんじゃないかと思います。

【67】自分も含め、若い求職者は就職意欲が低く感じます。あるセミナーで、今の就職している若い人や求職中の若い人に足りないものは「我慢」と「礼儀・作法」等基本的な事を言ってました。就職しても、上司や先輩に怒られただけで辞めてしまう人がいるらしいのです。仕事ができるとかは会社に務めてからどうにでもなることなので、社会人の前に人として基本的なことが身についてないと自分で自分の道を狭くしていることと同じなので、学生の時から意識していくべきだと思います。大学は、1年生や2年生の段階で、就職に対して意識を持たせる講義や情報を提供すべきと思います。

【68】一部の人間が引っぱりだこになっているだけの状況で「バブル期の並みの～」は言い過ぎだと思う。また、男女雇用均等法が現在は求人票から男女の記述を消しただけで全く機能していない。むしろ仕事探しの邪魔にさえなっている気がする。

【70】決して就職意欲が低いわけでもなく、努力不足でもないと思います。社会や企業が若者を雇い、ある程度育てる体制がないからだと思います。即使える人だけしか雇用しないような状態では、どんどん若者は働く意欲を失わせるだけだと思います。若者だって、いろいろと育ててくれる会社や教育機関で学べるような国の助成する体制が必要だと思います。

【88】やはり意欲を持って取り組む姿勢の大切さを大事にしていこうと思いました。これからの自分の人生設計をしていくんだと思って、実行し、夢を叶えていきたいと思いますし、自立をしたいです。本当の意味で、ですが。

【93】コネが一番！

【96】学校を卒業してしまった後に、個別で専門学校に行き直すなどしないと、高度な資格を取れない現状を、少しでも改善してもらえればと思う。

【99】若者の就職意欲が低いことは確かにあると思います。なんらかの資格があったり、夢があったりする人は、その道に進みますが、それ以外の人が多いのが現状ではないでしょうか？ハローワークに来ている人は、仕事をしたくて仕事を探しに来ているので、もっと仕事の斡旋をしてくれてもいいのにと思う。甘いかもしれませんが。

【101】中小企業の第二新卒者に対しての理解がない。

【109】ハローワークで面接の仕方・履歴書の書き方・セミナーを実施してもらいたい。求人に社保・ボーナスなど完備された正社員採用が少ない。

【110】実際に若者の就職意欲が低いことや努力不足も現状の形成要因には違いないがあくまで一因であると考える。慢性的な不況により企業の求人件数は昔よりも少なくただ単純に内定を得ることも困難になったものと思われる。企業としては余裕がないから門戸を狭めざるを得ないという状況であることは重々承知しているものの求職者の中には採用試験ではなく実際の働く場でその真価を発揮する者がいるという可能性を考慮しインターンシップや職業体験によって企業の門戸を広くすることを求める。上記に加え、企業・国・学校等が協力し、在学中から学生をアルバイトやパートとして雇用し、その労働状況に応じてそのまま社員として登用していくといったプロセスを構築していくことも有効な手段であると思う。最後に家庭の取り組みとして両親は日常的に子供の将来についてよく話し合っていくということもこれからの若者の就業意識の改善に必要であると思う。

■学生

【3】ハローワークやジョブカフェを8月8日にはじめて利用しました。思っていたよりも情報があると思いました。あとは条件次第といった感じです。

【12】就労意欲向上の為、中高の授業で就労に関する話し合いをすべきと思います。また、友人同士、家庭内、学校内で仕事について気軽に話せる雰囲気を、各メディアでの報道や国の施設の中で作っていくことが大切と思います。

【25】アルバイトにも社保･厚生年金をつけるようにした方が良い。

【44】自分の場合は、現段階では自分の努力不足だと思う。周りの人たちの就職状況も厳しいが、私が所属する学科は、他に比べは動きが鈍いので、就職難なのは学生の側にも問題があるように感じる。学校に来る求人も、学部に偏りがあるように感じる。

【46】選ばなければ働けるところは十分にあるはずなので、選択の幅を広げれば

就職が厳しいということはないはず。

【47】「就職意欲が低い」「努力不足」といった見方は、私の周囲に限っては正しいとは思えない。実際に就職活動をしている学生は皆必死だ。ただ「もういいか・・・」と投げやりになる気持ちは理解できる。

【54】就職活動をはじめたばかりであまりはっきりしたことは言えませんが、求人数を見ても少ないし、企業から求人に対して求めることが高くなっているような気がします。

【58】1 行目に書かれていることも一理あるとは思うが、それだけではない気がする。景気が悪いというのが一番だと思う。希望することは特にない。

【66】努力不足とゆうか、どのように就職活動をしていいかよくわからず、学校に頼っていたら、他校の友達から遅れをとってしまいました。もっと、指示してほしかった。不景気だし求人も少ないから、フリーターでもいいやって諦め半分の気持ちです。

【69】学生時代はいくらでも遊べるし青春もできるし、一人暮らしをしても親の仕送りがあれば生活が多少楽になるので本当に楽しいと思う。でもその楽しい時代から抜けきれず就職したくない人達が多いのは事実だと思う。就職＝忙しい・大変、だからアルバイトでも十分なんじゃない？なんて考える人は結構いると思う。私の短大は割と就職率が良いため最初から就職を目的として入学してくる人はたくさんいて、みんな前向きだけど、私が所属しているサークルの四大生からみると２年間の学生生活の後すぐ就職というのはとても大変そうにみえるらしい。確かに楽じゃないと思う。私も、できれば夏休み前に内定したかったけれども、結局まだ就活が続いている。でも、就活自体は嫌じゃないし、むしろいろいろな会社を知ることができるため、自分のやりたい仕事も増えてくる。もっと前向きに考えたら多くの会社に出会えて、楽しいと思う。それに、学生には学生の楽しさがあるのと同じように社会人なら大人の楽しさがもっとあると思う。

【83】就職意欲が低いのは恐らく自分の絶対譲れない部分を叶えてくれる企業が少ないからだと思う。自分を犠牲にしてまで妥協してまで就職したくないという人が多くなってきているという事だと思う。それに、今はバイトでも何とか生計を立てられるから、その事に拍車をかけていると思う。

【90】就職活動を始めていないので何とも言い難いが、自分の就職は自分で何とかするものだと思うので、国に頼ってはいけない。

【95】求人はあるのに、場所や休日日数、賃金などで選びすぎてると思う。求人の数はあるのに、ただ選びすぎて受けないだけだと思う。

【98】就職活動をしていて思ったのは、どんな職業があるのか、あまり知らないということです。実際、説明会に行っても、具体的な仕事内容がピンとこなかったので、学生の頃から、色々な仕事を、身近に感じる機会があれば、もっと良かったなと思います。

【106】そんなこと（設問中の「若者の就職意欲が低いことや努力不足」に就職難の原因があること－調査者）はないと思う。

資料3　調査票（離職者用）

【回答方法】質問に対して、該当する番号を○印で囲んで下さい。○印は原則としてひとつの設問に対してひとつのみです。但し、【複数回答可】などの設問もあります。また、空欄（　　）には、数字を記入して下さい。

【Ⅰ】はじめに基本的なこと（基本属性）をお聞きします。

(1) 性別	①男性　②女性
(2) 年齢	（　　）歳
(3) 配偶者は	①あり　②なし
(4) 扶養者は	①0人（なし）　②1人　③2人　④3人以上
(5) 最終学歴（※予定を含みます）	①中・高卒　②高専・短大卒　③大卒 ④大学院卒　⑤各種専門学校卒
(6) 現時点でのあなたの状態	①離職し、求職中（ﾊﾞｲﾄ中なども含む） ②学校を卒業後、未就職で求職中（ﾊﾞｲﾄ中なども含む） ③在学中　→（大学／高専・短大／専門学校／高校／その他） ④その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【Ⅱ】お仕事の経験についてお聞きします。

※上の【Ⅰ】の(6)で「①離職し、求職中」に○をつけた方は、離職する前のお仕事（最後のお仕事）についてお答え下さい。

※「②学校を卒業後、未就職で求職中」に○をつけた方で、バイトなどで働いている方は、そのお仕事についてお答え下さい。バイトなどをしていない方は、【Ⅲ】（次頁）へ。

(1) そのお仕事の具体的な内容は	
(2) 業種は	①建設業　②製造業　③運輸業　④通信業　⑤旅行業 ⑥金融・保険業　⑦卸売・小売業、飲食店 ⑧電気・ガス・熱供給・水道　⑨情報サービス業 ⑩その他のサービス業　⑪官公庁・団体等 ⑫その他（　　）
(3) 職種は	①事務　②営業　③販売　④生産（製造・建設・土木）　⑤運転 ⑥医療福祉・サービス・保安　⑦専門的技術職　⑧その他
(4) 雇用形態	①正社員　②契約社員　③ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ　④派遣（常用） ⑤派遣（登録）　⑥その他（　　）
(5) 会社の規模は	①大企業　②中小企業　③個人経営　④公共団体　⑤その他
(6) その会社での、勤続年数は	（　　）年と（　　）ヶ月
(7) 社会保険（政管健保・厚生年金）には	①加入していた（している） ②加入していなかった（していない） ③分からない
(8) 平均的な月収（手取り）は	（　　）万円位
(9) 一日の労働時間は	（　　）時間位
(10) 一週間の労働時間は	①20時間未満　②20時間台　③30時間台　④40時間台 ⑤50時間台　⑥60時間台　⑦70時間台　⑧80時間以上
(11) 月の休日日数は	（　　）日位
(12) サービス残業は	①あった（ある）　②なかった（ない）
(13) 月の残業時間は（ｻｰﾋﾞｽ残業も含む）	①ほとんどなし　②10時間台　③20時間台　④30時間台 ⑤40時間台　⑥50時間台　⑦60時間台　⑧70時間以上
(14) 働いていて、何か困ったことや不満、疑問などはありましたか（ありますか）。あった場合はその内容を具体的に教えて下さい。	①あった（ある）　②とくになし 【具体的には】
(15) あなたの離職の契機は【複数回答可】。 また離職の契機を詳しく教えて下さい。 ※現在働いている方は、離職しようとしている理由をお答え下さい。	①事業所閉鎖・会社倒産等　②解雇・人員整理 ③雇用契約期間の満了　④勤め先事業の先行き不安 ⑤労働条件や処遇に不満 ⑥当初に示されていた労働条件との相違 ⑦職場の人間関係　⑧他にやりたい仕事や活動があった ⑨自分の体調不良・病気のため ⑩その他（　　） 【具体的には】

【Ⅲ】現在の求職活動についてお聞きします。

(1) ハローワークに登録した時期は	平成（　　）年（　　）月頃
(2) 求職活動を開始した時点での状態は	①在学中だった　②働いていた ③離職中だった　④その他（　　）

（3）現在探している仕事の内容、雇用形態、月収（手取り）は	【 仕事の内容 】 【 雇用形態 】①正社員　②正社員以外（　　） 【 手取り 】①15, 16 万円　②17, 18 万円　③19, 20 万円 ④21, 22 万円　⑤23, 24 万円　⑥25 万円以上
（4）あなたがとくに重視している求人条件のポイントは【２つ以内】	①正社員であること　②収入がよいこと ③各種手当があること　④残業の少ないこと ⑤雇用・医療・年金など各種の社会保険に加入していること ⑥会社の場所　⑦会社の知名度 ⑧仕事の内容　⑨その他（　　）
（5）現在の求職活動の方法は【複数回答可】	①ハローワークに登録　②ジョブ・カフェに登録 ③家族・親戚や友人などを頼る　④求人誌や新聞の求人欄をみる ⑤資格の取得を目指して教育研修受講中 ⑥その他（　　）
（6）求職活動に割く時間	①非常に時間を割いている　②まあ時間を割いている ③まだあまり時間を割いていない
（7）求職活動を進めている現在の心境（焦り）は	①非常に焦りを感じている　②多少焦りを感じている ③あまり焦ってはいない
（8）求職活動をはじめてから現在までの応募件数と面接件数は	応募件数は［　　］社位で、 そのうち面接までこぎつけたのは［　　］社位
（9）現在の、就職（再就職）の見通しは	①非常に難しい　②まあ難しい ③とくに難しくない　④わからない
（10）求職活動を行う中でプレッシャーを感じたり気持ちがまいったりすることは	①ある　②とくにない 【具体的には】
（11）求人条件での不満や就職に際しての障害は【複数回答可】 また、求職活動であなたが感じている障害・困難や、自分の希望とのギャップなどがあればお聞かせ下さい。	①正社員での募集が少ない　②賃金が低い　③労働時間が長い ④仕事の時間帯があわない　⑤仕事がきつそう ⑥社会保険に加入している募集が少ない　⑦年齢制限 ⑧経験が要求されている　⑨高度な技術や資格が要求されている ⑩その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿） 【具体的には】
（12）何か資格を持っていますか。どんな資格ですか。また求職活動でそれらの資格を持っていることは役に立っていますか。	①持っている　②とくにない 【どんな資格ですか，資格は求職活動で役に立っていますか】

【Ⅳ】現在の家計や生活の状況についてお聞きします。

（1）世帯でのあなたの位置は	①世帯主　②世帯主の配偶者　③世帯員
（2）世帯で家計を支持しているひとは	①親　②あなた自身　③その他（　　）
（3）現在のお住まいの種類は	①親の持ち家・ﾏﾝｼｮﾝ　②あなた自身の持ち家 ③民間借家・アパート　④公営借家　⑤その他（＿＿＿＿）
（4）いまの暮らし向きは	①非常に苦しい　②多少苦しい　③楽である　④何ともいえない

■若者の就職が厳しい理由を、若者の就職意欲が低いことや努力不足に求める見解がありますが、実際に求職活動をしてみてどうお感じになりますか。また、若年層の就職や仕事に関連して、ハローワークや国、あるいは学校機関などに希望することがありましたらご自由にお書き下さい。

ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。私たちにできることは非常に限られていますが、現状の改善のために一生懸命取り組んでいきたいと思います。